

○吉田（和）参事官 それでは、定刻となりましたので、ただいまから「防災庁設置準備アドバイザー会議」第7回会合を開催いたします。

皆様には、御多忙の中御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、対面とオンラインによるハイブリッドでの会議形式を取らせていただいております。対面の方は、マイクが自動で入りますので操作不要となっております。御発言の際はマイクを近づけてお話しいただければと思います。

また、オンラインの方は、御発言される場合以外は、ハウリング防止のため、マイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。

また、本会議は各府省庁がオンライン傍聴している形式となっておりますので、御了承ください。

それでは、カメラ撮りはここまでとさせていただきますので、マスコミの皆様は御退室をよろしくをお願いいたします。

（報道関係者退室）

○吉田（和）参事官 それでは、ここで本日の会議の出席者を御紹介させていただきます。

構成員は18名の皆様が会場にて対面の御出席、それから阪本委員、坂委員におかれてはオンラインでの御出席となっております。

続いて資料の御確認をさせていただきます。

お手元の議事次第と資料1の骨子（案）が公表資料ということで、机上に配付しております。また、前回同様、赤いファイルの中に非公表資料で後ほど回収ということで①から⑤という資料が入っております。この赤いファイルの資料については、会議終了後回収ということになりますので、会議終了後は再度クリアファイルにお戻しいただきまして、机上に置いていただければと思います。

それでは、以降の進行は福和主査にお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○福和主査 おはようございます。

本日も全員出席していただいております。ぜひ今日は活発な御議論をいただければと思います。

事務局からも御説明があると思いますが、もうお尻が切れてきておりますので、何とか報告書をまとめていくために、今日、できる限り皆様から御意見を伺った上で、合意を形成していくことを目標にしたいと思っております。

今日に至るに至って、前回から10日弱あったのですが、ここにいらっしゃる若手の委員の方々が事務局と一緒に相当汗をかいてくださっていて、その結果、今日、こういった形で何とか形が整っている状況にあります。

あわせて、事務局のほうで、多くの先生方に御意見を何度も頂戴しながら、何とかここまで持ってきている状況でありますので、今日、皆様方には、できるだけ成案になるべく、必要な事項について御意見を賜ればと思っております。

まず最初に、この報告書の中身について、事務局のほうから全体を説明していただいて、その後、今日はたっぷり時間がありますので、その時間を使って、皆さんが納得できる形を目指したいと思っております。

もしも御意見が出た場合には、例えばですけれども、今日何とかみんなで合意を取りたいので、例えばあそこの部屋に別部屋を用意しているので、意見をまとめるために個別ミーティングをそこでやっていただいて、その成果をもう一度ここに持ってきていただいて、それでみんなで納得できるかどうかというようなことをするようなことも考えながら、ぜひ今日、少しでも合意を目指していきたいと思っております。

ということで、まずは吉田参事官のほうから報告書の中身について御説明いただければと思います。

○吉田（和）参事官 それでは、事務局から御説明いたします。

まず、赤いファイルにございます非公表資料①を御覧いただければと思います。

前回の御議論の中で、これまで経験したことのあるような災害と国難級の災害というのは分けて考えるべきではないかということで、一つ前書きと後書きということで、一案作ってはどうかということで御指摘をいただきました。それを踏まえまして、先生方の御指導をいただきながら、事務局案ということで作成いたしました。

簡単に御説明いたしますと、まず「はじめに」ということで、「『災害大国』から『皆で共に創る防災立国』へ」ということでしたためております。

1つ目の段落ですけれども、我が国は世界有数の災害大国であるということで、このような中、どのような状況でも人命最優先の考え方の下で、国民の命を守り、守られた命を確実につなげ、国家社会機能を維持することが国の使命であるということを最初にうたっております。

2つ目のパラグラフでは、これまで幾度となく災害に直面してきたのだけれども、やはり災害は常に我々の社会の弱点を突いてくるということで、それに対応するというところで取組を深化させてきたというところなんです。

しかしながらということで次のパラグラフですけれども、いまだ救われた命が被災後の生活環境や支援が十分でないということで、災害関連死などで失われるという事例が繰り返されているということでございますので、今後、同様の災害が起きたとしてもということで、こういう事態を繰り返すことのないようにということで、平時の備えを加速していきましょうということを書いてございます。

一方ということで次のパラグラフですけれども、南海トラフ地震をはじめとするような国難級の大規模災害については、従来の延長線上での対応ではなかなか太刀打ちできないということ。

次のパラグラフになりますけれども、こういった国難級の災害においても最善の対応を行うためには、従来の制度や前提にとらわれず、今は顕在化していない被害を増大させるような現象、まさに社会現象の相転移というところを先回りして発見しながら、被害を劇的に低減させるような抜本的な対策を再構築していく必要があるということを記載してございます。

次のページへ行っていただきまして、また、防災は行政だけではできないということで、国・自治体だけでなく、企業、大学、地域、NPO、ボランティア、こういった組織に加えて、国民一人一人が自覚した上で、総力を結集しながら、共に考え、共に備え、共に守り、共に未来を築いていくということで、共にやっていくことが重要ということを記載してございます。

この上で、防災庁は何をやるかということで、全体を俯瞰しながら、産学官民をつないで、我が国にふさわしい防災を構想して、実行していく、こういったことの司令塔ということを記載してございます。

この中で、これまでに経験したことのある災害については、これまでの経験や教訓を生かしながら、確実に乗り越えられるように、万全の備えを進めていく。

一方で、未曾有の国難級の災害には、これまでの枠組みにとらわれることない考えにおいて社会全体で立ち向かうことが必要だということで、これは国家的挑戦ということなので、各総理大臣の指揮の下に、防災庁が中核となって、関係省庁一体で取り組む必要があるということを記載してございます。

こういった中で、自然災害に立ち向かうことは、ゆくゆくは世界を救うことになりましますし、安心して暮らせる社会、新たな価値を生み出す未来をつくることによって、次世代の子供たちに豊かな日本を手渡していく、これが目指す姿だということでもまとめてございます。

続いて次のページ、3ページ目を御覧いただきまして「おわりに」ということで、今後のことについて記載をしてございます。

2つ目のパラグラフですけれども、防災庁の設置によっても、すぐに全ての課題が解決できるわけではないということを記載してございます。次のパラグラフですけれども、あくまで防災中の設置は全てが整った到達点ではなくて、課題解決に向けた出発点であるということでもございまして、定期的な政策の見直しとか制度改革を重ねて実効性を高めていく、中長期的な深化を構想していくということで、その第一歩なのだということを記載してございます。そういう意味で、今回の報告書の方向性の中にも将来的な課題もございまして、中長期的な体制構築、改善を要するものもございまして、そういったところを防災庁がリードしていく責任があるのだということを明記したところでございます。

「はじめに」「おわりに」については以上でございます。

続きまして、公表資料1、目次みたいになっている資料と、非公表資料②、ツリー図になっているものを併せて御覧いただければと思います。

非公表資料②のほうで御説明をしたいと思っておりますけれども、前回の御指摘の中で、例えば片田先生から、行動変容のところは事前防災の中に入れるべきではないかということで、ある意味構造を変えたほうがいいのではないかということの御指摘をいただきました。

それを踏まえまして、最初は4つの柱ということでやっていたのですが、一旦、基本政策・国家戦略の立案という1つ目、それから、事前防災の推進・加速という2つ目の柱、3つ目の柱として発災後の統括、こういった3本柱ということで一旦整理をしました。

その中で、事前防災の中身については、未然の被害防止・軽減という予防力強化があるということ、それから、災害対応を円滑にするための事前準備があるということ、対応力強化の事前準備があるということ、こういった2つの柱を立てております。

前回の構造ですと、(2)の事前準備の中にそれぞれ連携強化でありますとか、デジタルとか、災害対応、標準化、こういった横断的な取組についても取り込んでいたところなのですが、今回、それぞれの取組は横断的なものとして、予防力にも、対応力の強化にもつながるということで、一旦外に出しまして、(3)の「事前防災」推進のための横断的取組ということで、ある意味階層を上げまして、重要なものとして位置づけるということで、外に出したということを整理いたしました。

その上で、横断的な取組として、防災教育・啓発、関係者の連携、デジタル技術の徹底活用、それから人材育成、研究開発、国際展開ということで、ある意味新しいところの取組を大きな柱として立てたというような構造に一旦変更をさせていただきました。

その上で、本文について御紹介をさせていただきたいと思っております。

非公表資料③を御覧いただければと思っております。

こちらは報告書という形で、表紙もつけて報告書の雰囲気を整えてございますが、お開きいただきまして、目次がございまして、その次のページから1ページ、本文のページになってございます。今回、御指摘いただいて主に変わった点を黄色いマーカーで引いておりますので、そこを中心に御説明をさせていただきたいと思っております。

まず1ページ目を御覧いただきまして、「2. 我が国を取り巻く社会状況」というところで、こちらは御指摘をいただきまして、ある意味、地方の社会基盤サービスの縮小とか、都市部においては首都圏の人口密度といったところでもありますとか、地方自治体のマンパワーの逼迫、こういったところは災害脆弱性を高める要因になっているということで、社会状況の大きな変化の一つであるということで書き加えてはどうかと思ひまして、記載を追加してございます。

2ページを御覧いただきたいと思います。防災行政に必要な機能ということで、上のところですが、熊本地震や能登半島地震の教訓を踏まえということで、やはり避難生活の困難さというところが多く出てきているということですので、「場所」から「人」への転換ということと、被災者ニーズを踏まえた「モレ・ムラ」のない支援の実現を目指す必要があると。こういったところを前回は後ろのほうに書いてあったのですが、ま

さに現状ということで、今後必要な対策ということで、大きな位置づけということで前に持ってきたという変更をさせていただきます。

続きまして、3ページを御覧いただければと思います。「2. 防災庁の目的と果たすべき役割」のところですが、前回、司令塔機能とは何ぞやということで、一定定義を置いたほうが良いということで御指摘をいただきました。今回、我が国の防災全体を俯瞰するという全体俯瞰の機能、それから、産学官民のあらゆる力をつなぎ合わせるというつなぐ機能の、さらに我が国にふさわしい防災の在り方を構想して進める機能、こういった3つを司令塔機能ということで書き下ろしたというような形で整理をいたしました。

その上で、3つの司令塔機能ということで、先ほど御紹介した柱を整理させていただきます。特に(2)の事前防災のところは、従前の書き方だと誰が何をやるのかがちょっと分かりにくかったところなので、それぞれ関係府省でありますとか、地方自治体、民間事業者それぞれが自律分散、協調して事前防災の取組をする必要があつて、それを俯瞰してコーディネートしていく。こういったことが分かるようにということで、より詳しく記載を書かせていただいたところが黄色の部分になってございます。

それから、4ページをお開きください。

1つ目の「防災に関する基本政策・国家戦略の立案」というところで、これはある意味、これまでやっていないこと、延長線上にないようなことをジャンプアップしてやっていくようなことなのだとということがしっかり分かるようにということで、これまで顕在化していないが、今後の大規模災害では起こり得るような被害を先読みするという、社会現象の相転移ということで記載をさせていただいておりますが、そういったところを発見しながら、国民の行動変容をもたらしていく。こういったところがしっかり違いが分かるようにということで記載をさせていただきました。

2. の(1)のところですが、3つ目の○で、予防力強化のところはどうしても行政のハード面を中心なイメージがあるということでしたので、ここはあくまで民間でありますとか、個人、家庭こういったところの予防力強化の取組も重要であるということで、一定の記載をさせていただいたところでございます。

それを踏まえて、次のページ、5ページを御覧いただきますと、④ということで新たな柱を立てまして、「民間・個人における予防力強化の推進」ということで、民間部門における様々な耐震補強でありますとか、自律分散といった予防力強化でありますとか、個人、家庭、地域コミュニティーレベルでもできること、耐震化とか、家具の固定とか、こういったところを推進すべきということを改めて記載したところでございます。

それから、(2)の②の被災者のニーズに応じたということでございますけれども、まずは支援の課題検証や支援の在り方を検討する場の設置が必要ということで改めて記載をさせていただきますし、下のところ、フェーズフリーの※を書いてございましたけれども、※書きを分かりやすくということで、平時の生活を充実させることが災害時の生活を充実させることにつながるということを改めて記載させていただきました。

続いて6ページでございます。①の行動変容のところですが、正常性バイアスは前回の書き方ですとあたかも常に正常バイアスを認識しながら生きていけというような記載になってございましたので、あくまで災害が起きたときにそれを認識して、乗り越えていくことが重要だということで、記載を変更してございます。

iですが、**「自ら助かる」「共に助かる」ということで、**前回はごちゃごちゃになっていた書き方を一定分割したことで分かりやすく表現をしたところがございます。

4つ目の四角のところでございますけれども、リスク認知パラドックスみたいなものを技術基盤の構築みたいなことで乗り越えていこう、こういったところも御指摘いただきまして、記載を追加いたしました。

iiの災害の記録・記録・教訓の伝承のところでございますけれども、こちらもデジタル技術なんかを徹底活用しながら、課題の分析、振り返りを行うことで、次に生かしていくということを改めて記載させていただきました。

続いて7ページです。

NPO、ボランティアのところですが、従前の書き方ですとNPO、ボランティア、それから一般ボランティアの方、こういったところがごちゃごちゃになっておりましたので、改めて書き分けるということで整理をし直しました。

それから、8ページ目です。

デジタル技術はしっかり取り組んでいかなければいけないというところで、記載をそれぞれ追加させていただいておまして、例えば8ページ目の一番上の●のところですが、被災者データを収集・利活用できるシステムでありますとか、2つ目の●でマルチモーダルな観測データとか生成AIの徹底活用、こういったところで被災者・要救助者の発見とか全体像把握を進めていく、また、意思決定を支援していく、こういったところを書き込んでございます。

一番最後の○のところも加えてございまして、衛星、インターネットを通じた直接通信による安定通信の確保でありますとか、プライバシーの保護のための制度改正、こういったところも一定盛り込んだところがございます。

さらにその下、⑥で黄色いところがございまして、国際展開、世界への貢献というところで、いろいろなところばらばらにございましたので、一つにまとめて世界の防災を牽引していくということで項目を立てさせていただいたところがございます。

主な変更点については以上となります。

一旦こういった全体の整理をいたしまして、その上で、防災庁の必要性とか目的・役割、何をやっていくのかということが一般の方々も含めて分かりやすくなるようにということで、一つポンチ絵ということで整理をしてみました。それが非公表資料④になってございます。

1枚目のページは、防災庁の必要性、防災上の目的・役割ということで、報告書の中に記載されていることを一旦整理して、なぜ防災庁が必要なのか、何をやっていくかという

ことで整理をいたしました。災害をめぐる状況でありますとか社会状況の変化、それから現状の課題なんかを整理した上で、産官民一体で総力を結集して、事前の備えの加速が必要ということで、こちらも「はじめに」を踏まえまして2つに分けておりますけれども、これまで経験したことのある災害については、これまでの経験を生かして、避難生活環境の改善など徹底的な事前防災をやっていくというところ、そして確実に乗り越えていこうというところが左でございます。さらに、国難級の巨大災害については、被害の劇的低減のために抜本的な戦略・戦術を構築していくということ。こういったところが必要なので、全体を俯瞰して、力をつなぎ合わせて、新しい在り方を構想するための司令塔が必要であるということで、防災庁が必要なのだということを導いてございます。そのための司令塔機能というのは、先ほど御紹介した3つになります。

2ページ目は全体構造が分かるようにということで、先ほど御紹介しましたツリー図について、御紹介を記載しているところでございます。

続いて3ページになりますけれども、こちらのほうで防災庁において何が新しくなるのか、何が強化されるのかということを一定整理をいたしております。

3段階あると思っております、まず1つ目ですけれども、防災の基本政策・国家戦略を立てていくという機能、それから司令塔機能、こういったところを強化していくということで、基本戦略、平時の事前防災、それから発災後から復旧・復興までの司令塔、こういったところが強化されるのだということを記載してございます。

さらに次の段階で、これまでに経験した災害を踏まえてということでございますけれども、速やかに取組を強化すべき事項ということで、まずは避難生活環境の抜本改善、それから、それを支えるための産学官民の連携でありますとか、デジタル技術の徹底活用、こういったところをしっかりとやっていくということを強化すべき取組として位置づけてございます。

さらに様々な取組のベースとなる横断的事項ということで、行動変容に向けた取組でありますとか、災害対応標準化、人材育成、それから研究開発、国際展開ということで、新しい観点からしっかりと取り組んでいくということを位置づけさせていただいております。

最後のページになりますけれども、求められる組織体制ということで、1つ目はある意味各省庁の権限という意味で、各省庁に勧告などができるような権限を付与すべきではないかでありますとか、2つ目としては、先ほどの様々な業務が発災時においても並行的・継続的にできる実施体制の確保、そのための十分な人員体制の確保、また、南海トラフなんかが起こったときを念頭に置きながら、地域地域でそれぞれできるような総力を結集した災害対応を実現するための地方も含めた体制構築、こういったところを位置づけております。

最後にということで、専門人材育成の確保ということで、プロパー職員でありますとか、様々な機関の人事交流、また外部人材の登用、こういったところでありまして、教育訓練機能の確保といったところをやっていくべきということで記載をさせていただいております。

ます。

最後にというところでございますけれども、「おわりに」にございましたけれども、あくまで防災庁の設置は出発点であるということを改めて記載をしているということで、4ページ、防災庁が何をやっていくかということが分かるようにということで、一旦ポンチ絵で整理をしてみました。

事務局からの御説明は一旦以上となります。よろしく願いいたします。

○福和主査 どうもありがとうございました。

それでは、ここから意見交換に入りたいと思います。

前回から付加していただいたのが、主として「はじめに」と「おわりに」です。前回、様々な議論をしていただいた中で、そもそも論のところがちやんと書き切れていなかったもので、それを「はじめに」のところに特出しする形で、まずはここの検討の位置づけを明快にしようということを見せていただいております。「はじめに」を具体的に作るに当たっては、多くの方々の力をお借りしたという状況にあります。

まずはここで。

○吉田（和）参事官 それでは、赤澤大臣が御到着されましたので、一言御挨拶をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○赤澤大臣 アドバイザーの先生方におかれましては、本日も御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、もう7回目ということではありますが、本当にお時間をいただいてありがとうございます。7回目の会議となります。取りまとめに向けた議論も大詰めになってきたと承知をしております。ずっと精力的な議論を行っていただいていることに心から感謝を申し上げる次第でございます。

防災に関する専任の大臣を置く省庁の創設は、繰り返し申し上げますけれども、10年以上、長らくにわたり知事会をはじめ自治体の皆様から本当に強い強い熱い熱い御要望をいただいていたものに、ようやく政府、与党としてお応えをできると、しっかりその御期待に応えていきたいと思っております。

防災庁設置の方針を発表して以降、全国の自治体から真剣に地域住民を守ろうということで、防災に取り組んでこられた熱い思いや積み上げられたノウハウが十数年分、ある意味で要望が無視されてきたようなところがあるので、マグマのように噴き出してきているという状況を感じます。私や瀬戸副大臣、西野政務官のところにも寄せられております。防災庁設置に対する期待を本当に強く、ひしひしとかいう生易しいものではなくて、本当に熱いものを感じております。

自治体はじめ関係者の期待に応えられるよう、何よりも国民の生命、身体、財産を守り抜くために、関係者と力を結集して、平時から事前防災に徹底的に取り組む、そういう組織となるように御意見を賜りたいと思います。

先生方からいただいたその提言は必ず実現をするように、私のある意味政治生命をかけ

て、死力を尽くしてやっていくつもりでございますので、どうかよろしくお願いをしたいと思っております。

本日も誠にありがとうございます。

○吉田（和）参事官 ありがとうございます。

大臣はここで退席となります。

○赤澤大臣 申し訳ございません。引き続きよろしくお願いをいたします。

○福和主査 引き続きまして、議論を始めていきたいと思っております。

まず最初に、今回追加いただいた「はじめに」のところと「おわりに」のところについて先に御意見を賜って、その後、本文の御意見をいただくという形にしたいと思っております。

まずは最終に説明いただいた「はじめに」と「おわりに」について、御意見がございましたら御発言いただければと思っております。

矢守委員、お願いします。

○矢守構成員 ありがとうございます。矢守です。

今日はどうしても15分早く出ないといけないものですから、この後議論が沸騰すると発言する機会を逸するかなと思って、最初に手を挙げさせていただきました。ありがとうございます。

若手のメンバーの方か事務局のほうで、大変コンパクトに、しかしこれまでの密な議論を反映した「はじめに」「おわりに」をまとめていただけたと私は感じています。敬意を表したいと思っております。

その上で1点だけ、全体を通して「全体を俯瞰」という言葉がよく登場して、もちろんキーワードの一つになっていると思っております。それと対を成すものとして本文のほうに、検索をすると分かるのですが、「中長期的に展望する」あるいは「将来像を描く」といったフレーズが本文には5～6か所実は出てきますが、「はじめに」には一度も出てこないのです。私としては、全体を俯瞰するという姿勢と、それから、どうしてもそれぞれの災害対応・災害行政は近い課題にリアクションするということになりがちですので、それに対して防災庁は中長期的にこの国の防災の在り方を展望するという種類のフレーズを「はじめに」のどこかに入れていただくといいかなと思って聞いておりました。

具体的に申しますと、例えば「はじめに」の2ページの7行目に「防災庁は、全体を俯瞰し」で始まるフレーズがございます。この辺りにでも、防災庁は、防災の将来像を中長期的に展望し、さらに全体を俯瞰しといったような形で、今のはあくまで一例ですが、もう一度言いますと、防災庁は、防災の将来像を中長期的に展望し、かつ、とか、さらに全体を俯瞰し、産官学民をつなぎといったように修文をしていただくと、比較的スムーズに入るかなと思った次第です。

御参考までに、今は「はじめに」と「おわりに」でしたので、本当に蛇足なのですけれども、同じようなことが非公開資料④、ポンチ絵と言っていたものにも言えまして、全体を俯瞰するというキーワードは出てくるのですけれども、中長期的に展望するという

フレーズが出てこないのです、そちらにもどこかに盛り込んでいただくといいかなと思いました。

以上です。ありがとうございました。

○福和主査 ありがとうございます。

具体的な提案も含めて御発言いただきまして、見本のような御意見でありますので、こうしたほうがいいと思いますという具体も含めて御発言いただけると、意見を受け取りやすくなります。

私は今の矢守委員の御意見には賛同するのですけれども、皆様方はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員首肯)

○福和主査 挿入場所も適切であると思います。

一方で、ポンチ絵のところはどこに入れればいいのかというのも、ついでに矢守委員、何ページ目のここに入れるといいよと言っていただけると。

○矢守構成員 ポンチ絵のほうに議論が発散してしまうかなと思って言わなかったのですけれども、いろいろなところに入れられ得ると思いますが。

○福和主査 下のここでいいですか。

○矢守構成員 はい、そのところでいいと思います。

○福和主査 では、この我が国の防災全体を俯瞰しというところの中に、今の矢守委員の御提案の中長期的に展望しつつとか、した上でとか、そういう文章を事務局のほうで挿入していただく。これは皆さんよろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

○福和主査 1つ前進しました。よりよくなっていくという方向になりました。ありがとうございます。

そのほか御意見ございましたら。

片田委員、お願いします。

○片田構成員 2つ目の段段落で、各災害についての様々なこれまでの特徴があって、14行目辺りからは、多くの関係者の不断の努力により、防災・減災の取組を深化させてきたとなっております。それを受けての3番目なのですけれども、しかし、救われた命が云々かんぬん、全てここで書かれていることは関連死の話だけになっておりますので、修正案としては、しかしの後に、いまだ災害によって失われる命は多く、加えて、救われた命が被災後の生活環境や支援が十分でないことによって失われるという痛ましい事例も繰り返されているというような形にさせていただかないと、関連死だけが出ているので、そのように修正していただくといいと思います。

○福和主査 分かりました。

これは前回、矢守委員からも御指摘いただいていたいて、100人ぐらいの直接死が相変わらず発生し続けているということについて、これもゼロにしていこうという取組が重要である

という御指摘だと思いますけれども、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

○福和主査 そういう方向で、ここは、いわゆるよく起きている災害については、とにかく直接死をゼロにし、その上で関連死もゼロにする努力をするという趣旨で、ここは修文させていただきたいと思います。

事務局のほうもよろしいでしょうか。

○吉田(和)参事官 はい。

○福和主査 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょう。

大木委員、お願いします。

○大木構成員 同じ2段落目なのですがけれども、2011年の東日本大震災では、津波からの逃げ遅れというのが、逃げた先の高台ごと飲まれたケースもあるので、ニュアンスとして、東日本大震災での巨大津波とか、想定外の津波とか、もし想定外という言葉を使いたくないということであれば巨大津波とか、そういうニュアンスにしたほうがいいかなと思います。

○福和主査 津波の逃げ遅れだけではないから、ここまで具体的に書かなくても、巨大津波だけで分かるのではないかという御指摘です。

○河田構成員 それはまずいです。なぜかという、岩手県沿岸でも30分避難する時間があったのです。ですから、巨大津波だけにしてしまうと、被害は津波のせいになってしまうので、逃げたら助かっていた人が随分いるのです。これは明治も昭和の三陸津波もそうなのです。ですから、例えば海岸に防潮堤がなかったらみんな逃げていたのです。けれども、防潮堤があったから大丈夫だと思った人も随分いるという、いわゆる科学がまだ未熟なレベルでの防災というのが、現在そうなっていますので、単に外力だけの表現だけだと、我々サイドに問題はないというような形になってしまうので、巨大だったことも確かなのだけれども、逃げたらほとんど助かっていたということをつけ加えておかないと、今度、東日本大震災で長大なコンクリートの防潮堤ができていますから、もう二、三十年たったら、あれで逃げなくてもいいという判断になってしまう、これは私たちの悲しさなのです。ですから、そこを外力だけの表現ではまずいと思います。

○福和主査 ありがとうございます。

ここはいろいろな御意見があると思いますが、前のところは、木造建物の耐震性で、強い揺れという表現ではなくて、我々の社会の持っている課題が書かれているという意味で言うと、今の河田委員の御指摘は理解ができる場所もあって、我々が改善していくべきことを具体的に書くという意味では、逃げ遅れという言い方がふさわしいので、今の大木委員の御指摘を生かそうとすると、などとか書いていくぐらいかなという気がして今、両委員の御意見を伺っていたのです。

恐らく片田委員が以前から指摘されている人間の行動の大事さというようなところを後

につなげていくという意味で言うと、こういう書きぶりのほうが後ろにはつながりやすい感じはするのですが、皆さんはいかがでしょう。大木委員の趣旨も分かりつつ、行動変容につなげていくようなことにしていくという意図からすると、こういう形で残すのはいかがでしょうか。

○大木構成員 科学的に想定できなかった事象を地域は起こし得るという意味で、既に亡くなった方を、逃げればよかったじゃないかというニュアンスに取られるとよくないかなという思いと、地震学のほうに限界があった部分もあるので、そういった意味では耐震性というのと近く、科学として予測できないものが起こり得るという意味で、津波というのも出てきたのです。

○福和主査 それを書くとしたら、ここではない場所に書くことにしたらどうでしょう。科学の限界というか、それは恐らくそもそもマグニチュードがとてもし大きかったということもあるし、常に、想定していなかったことで、想定を超えることは、ほかの災害でもあるから。

○大木構成員 分かりました。

皆さんにお伺いしたいのは、科学のほうはあれですけども、逃げられなくて亡くなった方とか、その御遺族とかが御覧になったときに、このニュアンスのまま大丈夫かどうかという部分の側面でも。それは必要ない、考え過ぎであるということならば、このままで大丈夫です。

○福和主査 それは皆さんの意見をお聞かせください。

○河田構成員 具体例ですけども、東日本大震災では小中高校生の御両親が1,700人亡くなっているのです。残された子供たちは、何で逃げなかったんだろうと、みんなそういう疑問を持っているのです。ですから、そこで大きな津波だけだったとなってしまうたら、本当の事情というのは伝わらないではないですか。だから、逃げたら助かっていたのに何で逃げなかったんだということまで持っていかないと教訓は生きてこない。

○福和主査 非常に言いにくいことなのですけれども、神戸で耐震性がなかったことも、何でそれを事前に直さなかったのだろうかというようなことを本来言わなくてはいけないのだけれども、起きた直後は被災者の人たちへの気配りをして、そういったことが書けていないところもあったので、今回は、これからやってくる本当に大きい災害に対しても、ちゃんとこの国がしっかりするという意味で言うと、被災者の方々のお気持ちは分かりつつも、ここではちゃんと前を向いてこういうことを書いておいたほうがいいかなという気もするのですが、大木委員、いかがでしょう。何となく皆さんの表情を見ると、そっちのほうがいいかなという、うんうんが聞こえるところもあるので。

鈴木委員。

○鈴木構成員 ちょうど今年の3.11のときに、もちろん現場で取材をして、いろいろレポートとかを書いているのですが、東日本大震災のときに高校を卒業したその日に、お母さんが仕事をしている。家で、帰ってくるから待っていてねといったときにあの地震と津波

が来た。近所の人たちは、卒業したばかりの高校生が一人で家にいて、逃げよう、逃げろ、近所の人たちが誘った。そうしたら彼は、母が帰ってくるから待っていますと言った。一人残されて彼は死んでいるのです。お母さんは、あれからもう十何年たちましたが、いまだにそれがずっと頭の中にある、そういう例を取材しました。

これは本当にワンケースですけれども、私、これはジャーナリストとしてというわけではないけれども、10通りの被害があったら10通りの被害だと思ふのです。相対的なものではないので、そこの表現が非常に難しく、総合的に考えていけば、河田先生がおっしゃるように、そういう表現も必要だけれども、一人一人を考えていくと、100人被災者がいたら100通りの被災があるので、その辺の表現をどう重きを置くかというのは、最終的な判断は難しいかなと。だから、僕は大木さんのおっしゃることに非常に共感をするので、どう判断するかは難しいのではないかなと思ふのです。

○福和主査 みんなそれは感じるのです。でも、具体的に何か書かなくてはいけなくて、今日は合意しないといけないので、提案をしていただきたいのです。

○鈴木構成員 僕は、例えば前書きと、それから中でもう少し細かく書くとか、書き分けることが必要かなと、現実的な対応ですけれども、そういう気がします。

○福和主査 ここは「はじめに」なので、「はじめに」のところはコンパクトにできるだけ明快にメッセージを書いてあげないと後ろには続かないので、今のような科学の限界とか、あるいは、いろいろな被災者に配慮するというのは、本文の中で必要であれば書いていくということでしょうか。

○鈴木構成員 そうですね、本文ではちゃんと書いたほうが良いと思う。

○福和主査 それも、ここに書いたほうが良いというような具体的提案を何かいただきたいので、明城委員。

○明城構成員 今のところで、これもいろいろ賛否あるのかもしれないのですけれども、逃げ遅れという遅れがあるので、犠牲者の人の責任というような印象が持たれてしまうのかなと思いますので、津波からの避難ということでもいいのかと。ちょっとぼけてしまうのではあるかもしれませんが、津波からの避難という課題が示されたとなつがるかと思ふので、それでどうなのかなという気はしました。

○河田構成員 逃げ遅れというのはちょっときつい言葉ですよ。ちょっと和らげていただいたほうが。

○福和主査 津波避難の課題とか、そういうぐらいにしましょうか。津波避難の課題とか、課題としては出しておかないといけないから、そのぐらいで収める。

加藤委員。

○加藤構成員 両者の意見を入れると、東日本大震災では、想定を超える津波からの避難あるいは逃げ遅れ、想定を超えると。

○江口構成員 そこは事象だけでいいのではないですか。上は火災と書いてあって、耐震性の話があって、津波でいいではないですか。その人の行動に関してここで入れる意味

がちょっとよく分からないです。

○福和主査 並びとしては私もそう思っていて、僕は想定を超えると入れないほうが、前後の流れではほかと並列するときには据わりはいいですね。

○江口構成員 関東大震災も火災で逃げ遅れの被害がいっぱいあったわけですね。そこを言及しないでここだけ言及するのはよく分からない。しかもこれは前書きなので。

○福和主査 津波避難の課題ぐらいでいいですか。

○臼田構成員 課題は最後に持ってくる。

○福和主査 では、津波避難でいいですか。

○江口構成員 2011年東日本大震災での津波でいいのではないですか。

○大木構成員 私、最初に巨大津波というのを提案したのです。

○江口構成員 大津波で、2016年と続けてもいいのではないですか。何でここだけ人の行動が入っているのかよく分からない。

○福和主査 耐震化するかどうかなので、耐震性というのも基本的に人の行動なのですからね。

○大木構成員 でも、耐震化しなかった人々とは書いていないですね。

○福和主査 それで提案は、今は津波避難という言葉にしようということで、逃げ遅れとは言わずに、津波避難でどうかという提案を今、明城委員からいただいた。

○大木構成員 巨大津波からの避難とか。

○河田構成員 いいんじゃない。

○福和主査 いいですか。では、大津波からの避難でいいですか。巨大を入れますか。それも決めてください。

○河田構成員 大津波でいいんじゃないですか。

○福和主査 では、大津波からの避難、大津波の避難、どちらが据わりがいいか。大津波からのですかね。

ここはもう終着させます。大津波からの避難。

このペースでやるとすさまじい時間がかかりますので、できる限り落としどころを探しつつ。

石井委員。

○石井構成員 そのつながりで、厳しい避難生活環境という課題は、何も高齢化社会で起きているわけではないので、これはずっと続いてきていることなので、ここで高齢化社会だから避難生活環境が厳しくなっているという書きぶりはちょっとおかしいかなと思いましたが、能登半島地震でも続く厳しい避難生活環境とかと変えていただいたほうがいいかなというのが1点。

○福和主査 もう一度。

○石井構成員 今日的に続いているのだという表現にしたほうがいいかなと思うのです。関東大震災からずっと続いていることだと思いますので、能登半島地震でも続く厳しい避

難生活環境の課題。別の問題なので、高齢化社会は抜いたほうが良いと思うのです。

もう一点なのですが、次の弱点という言葉がちょっと気になっていて、弱点は後ろめたいとかそういう意味も含んでしまうので、一般的に防災だと脆弱性とかという表現になるのかなと思うので、ここもちょっと変えたほうが良いのではないかなと思います。脆弱性だと、外部からの攻撃・変化に対して弱い状態なので、私たちが後ろめたいということではないのだと思います。

○福和主査 それぞれでいきたいと思いますが、まずは1つ目、2024年、能登半島地震でも続く厳しいをつけるか、避難生活環境という課題、これについてはいかがでしょうか。皆さんいいですね。

○片田構成員 避難生活環境という課題って変ではないですか。

○福和主査 言葉がね。

○榛沢構成員 厳しいがあればいいんじゃないですか。

○福和主査 この課題は前半全部を入れているので、などの課題。

○石井構成員 全てが課題なのですよね。

○福和主査 前のものを全部受けないといけないので、などの課題として、前半のものを全部課題として受けていくということによろしいでしょうか。1点目はいいですね。

次は、我々の社会の弱点というのを、脆弱性、あるいは脆弱さでもいいのかもしれませんが、これについてはいかがでしょうか。

○河田構成員 それはまずいです。なぜかというと、社会現象の相転移というのは大きな欠点なのです。だから、それを脆弱性とやってしまうとぼけてしまう。ここで弱点としていただくと、はっきりと何が問題かということになるので、脆弱性となってしまうと絞り込むのが非常に難しくなる。

○福和主査 ここは意見交換をしていただきたいと思います。

今の御指摘は、脆弱性というのは絞り切れていないのではないかという御意見、もやっとしている印象を与えているということかもしれない。それで性ではなくて、僕は脆弱さかなと思ったのですが、ここも言葉の使い方次第だから。

○石井構成員 それは単語の持つ意味の問題なので、絞り切れているとか、絞り切れていないとか、弱点だって絞り切れていることを示すことでもないですので、ただ、言葉の国語的な意味として、十分ではないはいいのですけれども、欠点、短所とか、後ろめたいところみたいな意味を含む単語が適切かどうかというところを御検討いただければと思います。

○福和主査 これは皆さん何かいい案があればお示してください。

○石井構成員 脆弱さが何となくしっくりくるには思うのですが、国語としての意味のところ。

○吉田（和） 参事官 事務局からですが、一応本文の中で弱点みたいなところと並べて、急所とかボトルネックみたいな言い方も入っていますので、そういったところも御

参考にいただければと思います。

○福和主査 急所と言うと絞り込み過ぎてしまっているところがあるから、こういう用語は悩ましいのです。この種の用語は大事だということはすごく分かるものの、そこまで今日踏み込んで議論をし始めるとこの報告書全体を見られなくなってしまうので、今のような御意見があったということ踏まえて、ここは事務局に委ねるということでどうでしょうか。

○石井構成員 後のほうの急所といったところとの言葉の整合性を取っていただければいいと思います。

○福和主査 そういう言葉を使うときには気をつけなさいよという指摘を受けたという形で引き取らせてください。我々は理系なので、言葉があまり得意ではないので、私の場合とか。吉田参事官はこういうのが得意ですから、工夫してもらうようにしたいと思います。いいですか。

(「はい」と声あり)

○福和主査 そのほか、「はじめに」で。

廣井委員、お願いします。

○廣井構成員 廣井です。

ざっと「はじめに」と「おわりに」を改めて見ると、文章がやや難しいところが結構あって、我々が厳密にやろうとすればするほど専門的になって、国民に届かなくなってしまうというのを私はちょっと懸念しているのです。なので、どこかに一文でもいいので、本当に子供でも分かる、分かりやすい端的な国民への呼びかけみたいなものがあつたほうがいいと思うのですけれども、「はじめに」はもうこれ以上増やせないで、ここで提案なのですが、「おわりに」の一番最後に、例えば国民一人一人が一丸となれば、巨大災害の死者を激減させることが可能なのだと。そして、防災庁というのは、それを実現する組織なのだということを分かりやすく入れると、最終的にこういうことがしたいのねと全ての国民に伝わると思うのですけれども、いかがでしょうか。一文増やそうという大胆な提案なのですけれども。

○福和主査 メッセージ性のある誰でも分かる一文を入れたらどうかという提案ですが、いかがでしょうか。

江口委員。

○江口構成員 本来はこれ自体がそれなはずなのです。本文もそうですけれども、ポンチ絵もそうですけれども、総論の話をさせていただければ、本文の中にも、災害コミュニケーションを含めて国民の人たちに行動を促しますというのが入っているわけです。そうであれば、前回も言いましたけれども、コロナのときから我々政府と国民の対話はいろいろ失敗してきたわけです。その最たるものが、分かりづらい文章、俯瞰とかポンチ絵に入っていますけれども、さっき話がありましたが、俯瞰なんか通じるわけがないですよ。抜け漏れとかもそうですし、もうちょっと分かりやすく、これを誰に読ませるのか、国民の

人に読ませなければいけないので、我々が理解できるものではなくて、国民が理解できるものを作らなければいけないと思っているので、できれば本文に移せるものは本文に移して、もう半分ぐらいにするべきだと僕は正直思っています。ただ、今からできないので、易しい日本語にまず換えてほしいですというのと、さっきおっしゃっていた「おわりに」ではなくて、一番最初にそれが入っていないと誰も読んでくれないですよというのがあるので、先ほどの議論で言うと、「おわりに」ではなくて一番最初にそういうメッセージを入れてくださいというのが僕のコメントです。

○廣井構成員 私は「はじめに」でも全然大丈夫ですけれども、2ページは長いのではないかなと。

○江口構成員 一番最初のところにそれが入っていてという話ではないですか。

○福和主査 頭だとやはり分かるのですけれども、前の文章があるから、結論としてこういうことが言いたいのですよという流れにしないといけないから、書くとしたら「はじめに」の最後か、あるいは、これが国民へのメッセージなのですからねというのは、最後の最後というのも目立つといえば目立つので。

○江口構成員 結論があって、なぜならばという話はできないですか。

○福和主査 書くのであったら、それは一番上のサブタイトルだと思うのです。だから、一番上のサブタイトルのところに分かりやすいメッセージが、タイトルの「『災害大国』から『皆で共に創る防災大国』へ」、これは結構重い言葉で固いから、あらゆる人が一丸となってペケペケとか、タイトルに入れてしまったらメッセージ性は一発かもしれないですけれども。

○喜連川構成員 座長も先ほどおっしゃいましたような表現系、我々はフェノタイプと云うのですけれども、これをここで議論しているとかかなりエンドレスで、最近世の中の人は何をしているかという、GPTに向かって中学生でも分かるようにしてくださいと云うと全然変わるのです。これは非難しているわけではないですよ。石井先生の言葉に対してどうこう言っているわけではないのですけれども、脆弱性という言葉を使ったときに、中学生が分かるのですかと云えば、分からないのです。そういうのをここで議論しても、年取った頭の固い人ばかりだといふ言葉が浮かばないので、言語は今、全部GPTです。言語を全部分かっているのがLLMと呼ばれているもので、ほかはまだできないのですけれども、効率はそっちをお使いいただいて、若い吉田さんが頑張ってくださいほうが加速する。その後もう一回見るというのをやればいい。

それと、メッセージはやはり最初でないと、難しい言葉がぐーっと来て、最後にというのは分かるのだけれども、そこまで多分誰も読まないと思いますから、私も分かりやすいメッセージは最初にプロパガンダとして入れるというのが当たり前だと思います。

○福和主査 前向きな御意見をいただいて、今の時代、言葉を分かりやすくするのはコンピューターがやってくれるから、ここは何を書くべきかということに取りあえず今日は注力させていただいて、言葉の議論をし始めると無限の時間がかかり始めるので、記すべき

ことが書いてあるかどうかというところに注力させていただければと思います。

メッセージ性のある言葉をどこに入れるかというのは、本当はこの報告書のサブタイトルに入っていると一番分かりやすいので、私はサブタイトルに入れてしまうのが一番いいかなと個人的には思ったのです。

○喜連川構成員 全部を否定しているわけではなくて、先ほど大木先生がおっしゃいましたように、被害者の方がお読みになられたときにどういう気持ちになるかというようなことは、AIは全然分かりません。単なる表現上の分かりやすさを追求することはできますけれども、中のメンタリティーまでは絶対分かりませんので、そこを申し上げているわけではないのですが、ちょっと効率化はできるのではないかとすることを申し上げたいと思います。

○福和主査 廣井委員に出していただいたもともとの御意見なので、廣井委員のほうで今の意見を皆さんからいただいた上で、どうするのがよさそうですか。

○廣井構成員 私、「おわりに」でいいのではないかなと思うのです。

○福和主査 これは好みの問題もあるから。

○廣井構成員 中学生とか小学生に防災庁って何ですかと聞かれたときに、例えば小学校の先生とかが一番最後に持ってきてもらうような文言は最後でいいかなと思いますけれどもね。読まないかもしれませんが。

○福和主査 ここは書くことが大事であって、そういうメッセージは必要だと僕も思います。タイトルに入れてしまうというのもあるけれども、最後に入れるというのもあるし、「はじめに」の冒頭もあると思います。全員意見が変わるので、多数決にしましょうか。そうとでもしないと意見は多分収束しない。あるいは、そのことも含めて事務局のほうで、とにかくそういうメッセージ性のある言葉は書くということを決めていただいて、据わりのいい場所を全体を見ていただきながら考えていただくとまとめさせていただいてもいいでしょうか。

○廣井構成員 もちろん構いません。

○福和主査 これ以上ここでやっても結論は出にくいので、事務局預かりで、すばらしいメッセージを吉田参事官から一個決めていただいて、こういうメッセージを書きますとメールで皆さんに発出してください。ただ、できるだけ細かいことはあまり言わずに、おおむねオーケーだったらオーケーにしましょうね。そうでないとこの一文だけで延々にメールをやり取りするのもちょっと苦しいので、よろしいでしょうか。

「はじめに」に大分時間を費やしましたがけれども、もう少しあれば。お二人、まずは鈴木委員から。

○鈴木構成員 私は言葉のことだけでいいです。2か所あって、一つは5行目なのですがけれども、地震、津波、台風、豪雨、火山噴火、豪雪の後に、猛暑もしくは酷暑、暑さを入れるべきではないかと思っています。昨日も1人もう亡くなりました。去年が9万7000人ぐらい搬送されて、120人亡くなっています。年間に120人自然の災害で亡くなる、もうこ

れは災害だと僕は思っています。気候変動に関する法律とかもできたりして少しずつ前へ進んでいますけれども、これも自然災害の分野としてここに明記するべきではないかなというのの一つです。

もう一つは、これは事務局にお任せしますけれども、26行目と次のページの11行目にある未曾有、この言葉が僕は過去防災をずっと取材してきて、官僚の人はこの言い訳は使いませんが、政治家は大体これを言い訳に使うのです。未曾有の事態だからできなかった、予測できなかった、想定外だった。いやいやどこかで酒飲んでいたくせに想定外だと記者会見しているようなことを僕は聞いたりして、未曾有という言葉はどうしても逃げに使ってしまうような印象をすごく僕自身は持ってきたので、厳密に言うと、この流れでいけば未曾有という言葉はそこまでは読み切れないとは思いますが、この言葉にはちょっと引かかったので、ここは御検討を事務局でお願いできればと思います。

○福和主査 何か提案はありますか。

○鈴木構成員 未曾有を取るだけでも文章は成り立つかなと。

○福和主査 これのほうが簡単なので、これについては未曾有を取ることについて、事務局的にはこだわりますか、こだわりませんか。

○吉田（和）参事官 次元が異なるというところで表現し切れているということであればよろしいかと思っております。

○鈴木構成員 取っても十分伝わると思っています。

○福和主査 次の11ページ目も国難級の災害とそれを示していると思えば、特にこれは外れてもいい気がしますけれども、いいですか。

では、これはオーケーと。

猛暑、酷暑を災害の中に入れるかどうかは、人によって意見が分かれそうな気もするので、いかがでしょうか。

○河田構成員 気象庁がそういうふうを考えているかどうかで決めたらどうですか。

○福和主査 そうしましょうか。国のほうで言っている現状の災害の定義みたいなことですかね。

山本委員。

○山本構成員 僕は絶対入れたほうがいいなと思っていて、これからそこがまさに焦点になってくると思いますし、世界的には圧倒的にその流れのような気がするので、入れたほうがいい気がします。

○福和主査 そのほか御意見どうでしょう。

高橋委員。

○高橋構成員 2ページの4行目なのですからけれども。

○福和主査 まずは今のものを決着させてください。猛暑、酷暑の話はどうするかを決めた後、高橋委員の次のことにさせていただいてもいいですか。

猛暑、酷暑についての取扱い、これは今どうなっているかがちょっとよく分からなくて。

江口委員。

○江口構成員 政府がこれに対しての範囲を指定していると思うので、それを書けばいいと思いますので、細かいことを言い出すと感染症とかいっぱい。

○福和主査 感染症は災害ではないから、災禍にすると、言葉の定義だと思う。

○江口構成員 感染症は災害じゃないと言われると地方自治体がきーっとなるので、入れる意図は分かるのですけれども、書きぶりとしていろいろなものを入れ過ぎると余計なものを起こすと思うので、なるべくシンプルにしたほうがいいと思いますし、国で定義を持っているのであれば、それをコピペしたほうがいいと思います。

○福和主査 そういう方向でいいですか。鈴木委員の意図は理解しつつも、様々な災害というところの今までの政府の文書の書きぶりに一旦合わせさせていただいてもいいでしょうか。猛暑、酷暑も入れられそうだったら入れるということにさせていただくことで、これも事務局側に委ねるといっていかげんかでしょう、鈴木委員。

○鈴木構成員 はい。

○喜連川構成員 クライメート・チェンジを議論しているところは、明らかに2050年なんかでは到底間に合わないぐらいの温暖化がすごくあちこちで議論されていますから、今の時点の政府の文書というよりは、もうちょっと中長期的というお言葉をどなたかがおっしゃっておられたと思うのですけれども、そういう意味ではこれもマストな表現だと思います。

○福和主査 いかがでしょう。

石井委員。

○石井構成員 AIによると、世界気象機関が、自然災害による死者のうち猛暑によるものが最も多いと発表していますと出てきます。

○福和主査 自然災害というのがついていたのですね。

○石井構成員 はい。

○福和主査 分かりました。では、今のことを受けて、修文する方向で事務局に委ねるといって、ほかの文章とかも見ながら、できる限り入れていく方向で検討いただく。前向きに受け取っていただくということよろしいですか、鈴木委員。

○明城構成員 細かいのですけれども、並べるのであれば、今、気候変動の話がありましたけれども、火災が今回大船渡で大きなものがあつたりとか、あちこちで今年起きたりというのがありますので、並べるのならそういうのも含めるのかなという気はします。などで含めるなら、などで含めるでも構わないと思いますけれども、そこだけ。

○福和主査 火災だけというよりは、大火かな。どうするんだろう。

○石井構成員 世界的には森林火災なのでしょうね。民間の火災とは違うので。

○江口構成員 ここの部分は全部カットして、様々な災害でもいいんじゃないですか。

○石井構成員 様々な災害でもいいかもしれない。

○福和主査 こういうところの議論をあまりするとちょっと生産的ではないから、単純に、

例えばですけれども、我が国は災害大国であり、様々な災害が頻発する中でもとか、タイトルに「災害大国」と入れているから、ここに我が国は災害大国であり、様々な災害が頻発する中でも、誰もが安心して暮らせると。そうすると一番単純になります。あまり「はじめに」を増やしたくないので。

○江口構成員 前文ですから。

○福和主査 そう。江口委員、生産的な意見をいただいてありがとうございます。単純化してメッセージが伝わるのが大事であって、ここで抜け漏れを考え始めるのはいいことではないので、「はじめに」はメッセージ性を大事にするということで、簡潔に、今のは全部カット。よろしいですか。

高橋委員、お待たせしました。

○高橋構成員 付け加えることになるのですが、2ページの4行目なのですけれども、福祉の関係者にきちんと読んでいただきたいという思いもありますので、自治体の後に保健医療・福祉関係者というのをに入れていただけると、なかなか今あるものに入りにくいので、そういう文言の追加をぜひお願いしたいと思います。

○福和主査 これはいかがでしょうか。

○石井構成員 いいと思います。

○福和主査 並びは自治体の後がいいですか。それでよろしいですね。

皆さん御意見ないですね。

では、その方向で事務局的にはよろしいでしょうか。

○臼田構成員 今のでいくと、例えばこういうときに自衛隊とか消防というのはこの並びで入るのですか。

○福和主査 国に入る。

○臼田構成員 国に入るでいいんですかね。

○石井構成員 国じゃないですか。国と自治体。

○臼田構成員 国と自治体で入るでいいのですか。

○石井構成員 入ります。

○臼田構成員 そこの整理だけです。

○福和主査 よろしいでしょうか。

○菅野構成員 そのつもりとはわかりながらも、企業のほうが前に出なければまずいのではないかなという感じが今回はします。数の問題として、自治体の後は、気持ちは分かるけれども、個別過ぎないか。セクターという感じではないので、そのバランス。

○福和主査 それは理解ができますね。ある領域に限った話だから。

○菅野構成員 もう少し後のほうがいいかなと思います。

○江口構成員 様々な機関でまとめませんか。

○福和主査 要は言いたいのはあらゆる機関と国民一人一人なのですよ。

○江口構成員 でも、さっきおっしゃったように、ここにターゲットが入っていると自分

事になってくるので、この人は書いていいとは思うのですけれども、あまり広げ過ぎると1ページ使ってしまうことになる。

○福和主査 どっちにしますか。保健福祉・医療関係者と言うと一人一人になってしまうので、どうしますか。

○江口構成員 福祉・医療では駄目ですか。

○福和主査 保健は自治体側とか役所側が見ていると。でも、こういうことであまり議論の時間は取りたくはないので。

○江口構成員 これは文言ではなくて、誰に読ませるものですかというのが結構大きくて、そこに自分の関係するものが入っていれば、これは僕たちだねと読み取ってもらうメッセージでもあるので、ここはほかの文言と違って結構重要だと思います。

○福和主査 並びと、どう書くかを提案ください。

○江口構成員 多分企業は後ですね。通常でいくと公から書きますね。

○福和主査 では、企業を後ろにする。そういう案ですけれどもよろしいですか。

保健、医療、福祉の並びで3つ全部記すでいいですか。

○石井構成員 基本的に今は保健医療福祉調整本部が立ち上がるので、その3つは切り離せないとは思いますが。

○福和主査 事務局的にはいいでしょうか。

高橋委員もその決着でよろしいですか。

○高橋構成員 はい、ありがとうございます。

○福和主査 皆さんもよろしいでしょうか。

○臼田構成員 本当にこれだけ、先に本当に小さい話で申し訳ないですけれども、大学・研究機関と入れていただけると、私も含まれるのでありがたいです。

○福和主査 分かりました。

○臼田構成員 あと3点あるのです。

一つ、これは本当に皆さんに相談というか、気になっている一語があるのですが、2ページ目の14行目で、内閣総理大臣の指揮の下、その後、防災庁が中核という言葉がちょっと引っかかかっていて、本文はずっと、ほかも含めて防災庁は司令塔であると言っているのですけれども、ちょっとここで濁らないかなという心配をしました。

それから、先ほど赤澤大臣も言っていました、防災の担当大臣を立てるということを結構おっしゃっていたと思うので、総理大臣の指揮の下は入れるべき言葉なのかどうかちょっと気になるのですけれども、ここはどうなのでしょう。これがまず1点です。

○福和主査 時間配分を考えないといけないので、ついでに全部言っておいてください。

○臼田構成員 2点目は、同じくこの文章のところが、9～14行目の国家的挑戦まではとてもいい言葉なので、これはきちんと独立させて、7行目、8行目と14行目、15行目が体制の話なので、これは上側にある4、5、6行目とくっつけたほうがいいのではないかなと思いました。

具体的には、まず14行目の内閣総理大臣の辺りは別として、防災庁が中核となって関係府省庁が一体として取り組むというのを、4行目の国というところにつけられないのかなと思いました。例えば4行目、国は、防災庁が中核となって、関係府省庁が一体で取り組むとともに、さっき言ったのが並んだところで、総力を結集し、共に考えと言うと、体制の話が全部そこでまとまるように思いました。それが2行目、3行目の防災は行政だけでは達成できるものではないにもつながると思います。これが14行目、15行目に離れてしまっているのがちょっと気になっているということです。

もう一つは、これも小さい話で、3ページ目の14行目の法制度整備・改正のところ「将来的な」という言葉がついたのが若干逃げのように聞こえてしまったなという、これは印象です。「将来的な」はなくてもいいように思います。

以上です。

○福和主査 3点ですが、1つ目は、内閣総理大臣の指揮の下とていうキーワードは、事務局的には入っていたほうがいと判断されていると。

○吉田（和）参事官 より強い権限というか司令塔としての権限という意味で、あったほうがいいかなと思って入れております。

○福和主査 一番トップだから、一番トップがきちんと指揮をするということを入れたほうが強いと事務局的には判断している気がするので、これは残してあげましょう。

それから、次の中核となつてと。司令塔という言葉と中核という言葉はどう使い分けるかですけれども、司令塔と言うといかにも命令するかのよう感じられるところもあるから、中核というのはあるような気もしつつ、皆さんはどっちが好みか。ここも中核もあるかなという気もするから。

○臼田構成員 さっきの指揮の下の指揮という言葉と司令塔という言葉が、言葉としては近いので。

○福和主査 指揮が来ると中核のが据わりがいいので、総理大臣がいなくなると司令塔かもしれないから、これはいいことにしましょう。臼田委員、いいですか。

○臼田構成員 はい、いいです。それよりも14、15行目を。

○福和主査 そっちのほうに行きたいので、国がみんな一緒にやる、国も含めて全部やるという前に、まずは国としてこれこれをやり、国はこれこれと一緒にとしたらどうかという提案だと理解しました。

ただ、その場合は、国は誰々と一緒なので、みんなが並列ではなくなってしまうという懸念は一方である。

○臼田構成員 ここはもう事務局にお任せで、14、15行目が最後になっているのが気になっていて、結局9～14行目ですごくいいことを言っているのに、結局やるのは省庁がやりますと言ってしまうので、せっかく全体としてみんなで共に創っていきましようと言っているのに、ここだけ急に政府の話だけになっているのが気になります。それだけです。

○福和主査 そこは理解できるので、ここの修文も含めて、事務局にお任せするけれども、内閣総理大臣の指揮の下、この文章だけを上でいいですね。

○廣井構成員 それは私、反対で、2ページ目の一番最初のパラグラフが何を言いたいかというと、この前のたたき台は、現状、行政だけでは巨大災害時に命を守ることができないと書いてあったのです。それがさすがにダイレクト過ぎるので、表現を和らげようということでこういう表現になった。つまり、ここで言いたいことは、行政だけではできないのだよということを示したいので、そこに国が内閣総理大臣の下でどうこうと書いてしまうとぶれるような気がするのですけれども、どうでしょうか。

○福和主査 据わりの問題だから、そういう意見があったということ踏まえながら、事務局一任にしてしまっただけでは駄目ですか。全体の流れを見ながら文章を見ておかないと駄目なので、今の臼田委員の意見も頭に入れた上で、この配置で適切かどうかを事務局で検討し、ここは書いてあることは書いてあるから、一任していただくという方向でどうでしょうか。

○臼田構成員 廣井先生の意見も全くそのとおりでいいと思います。

○福和主査 趣旨は伝わったと思いますから、ちょっと工夫していただくということにしましょう。

もう一個残ってました。将来的な法制度の整備・改正や方向性の中に。

○臼田構成員 「将来的な」というのはなくてもいいかなと思いました。

○福和主査 これは今回これをやっていないということなのだとして理解したのですけれども。

○臼田構成員 方向性の中にはと書いてある。

○福和主査 方向性だからいいですか。では、これは受け取ります。方向性ですからね。

これはオーケーで、喜連川委員、お願いいたします。

○喜連川構成員 最初の座長のあれで、文章をfrom Aからto Bにしろということになってしまいますと、あまり全体的なことは申し上げにくいのですけれども、そういうのは事務局の賢い吉田さんに任せるとすることにして、今回の能登のStarlinkというのは圧倒的なパワーで、ああいうデジタルパワーを駆使しながらということはどこにも書いていないので、据わりのいいところにでも書いておくことが重要ではないかと思うのですが、どこに入れて、副詞句をどうしろとか、そういうのは国語が苦手なのでぜひ事務局でお考えいただければと。

○福和主査 分かりました。デジタルの技術の活用について、全く触れていないというのは何となく気にはなりますから、どう入れるかは。

○喜連川構成員 お任せ。

○福和主査 あるいは、後で喜連川委員とあそこで調整してきていただいてもいいのですけれども、お任せでいいですか。

皆さん、お任せでいいでしょうか。適切な場所に挿入するというので、事務局に委ねるとことにしたいと思います。よろしいでしょうか。

「はじめに」と「おわりに」はもういいでしょうか。

○江口構成員 意図の確認なのですけれども、括弧でくくられている言葉が幾つかあるではないですか。括弧でくくっている意図は何かあるのですか。

○福和主査 かぎ括弧ですか。これは事務局側から。

○吉田（和）参事官 到達点とか出発点とか、そこら辺も含めてですか。

ある意味、強調したい部分とか、一般的ではないというか、ちょっと目を引くようなものについてはかぎ括弧をつけたつもりでした。

○江口構成員 目を引くためにアテンションを引いていると思うのですけれども、アテンションを引かれるということは、その意味合いとかも含めて、対外的にどうやって説明するのかを教えていただければ。

○吉田（和）参事官 具体的にはどういう。

○江口構成員 到達点とか出発点みたいなことは、何でここで括弧でくくっているのか。要は何でここを強調しているのか、意図を教えてください。ほかにも今まで議論で括弧でくくるべきものがいっぱいあったけれども、なぜここにだけやられているのか。何か意図があればそれを聞きたかった。

○吉田（和）参事官 あたかも防災庁の設置でゴールというところではなくて、これがスタートなのだということ強調したいという意味合いで、ゴールではなく、ゴールとスタートの対比という意味で強調するような形で対比を表現したという意味合いでした。

○江口構成員 最終的にはどこかでまとめて伺いたいと思います。誤読されるし、これは何ですかと言われたときに僕たちも困る言葉が入っているので、そこだけは後で修正するなり、何か調整させてください。

○福和主査 できるだけ今日もうここで決めていきたいので、事務局一任であればいいのですけれども、そうでないのであれば、ここで具体的にやっておかないと。

○江口構成員 括弧の話は、どこにアテンションをかけるかの話なので、全体の議論が終わった後に最後、一任するか、ここだよねというのが説明できればいいかなと思います。

○福和主査 そういうことでよろしいですか。

まずは中身でいきたいので、どこにアテンションをするかということも含めて、それは後にしましょう。中身の議論をさせてください。

これでいいでしょうか。

これは初出だったから、今日、比較的時間をかけて「はじめに」と「おわりに」は議論をさせていただいております。これについての議論はここまでにさせていただいて、ここからは本文になります。

本文については、これまでに相当皆さんに見ていただいているので、あえて今日、この部分はというようなことがあれば、章ごとに順番にいきましょうか。それとも、アットランダムに皆さんから聞く形にしましょうか。アットランダムになるとちょっとやりにくくなるので、順番に、まずは防災庁の必要性というくくりの中で御意見がある方。

まずはその前に、目次の書き方がちょっと気になっていて、さっき投影して下さっていた目次は、この目次とは違って、資料1が目次なのか、それとも、この本文の中にあるのが目次なのか、それが大事で、資料1が目次であったとすると、比較的重要な平時における徹底的な事前防災の具体的中身が丸数字としてちゃんと入っているのです。これがちゃんと示されていると、章によって何となく重さの違うものが同じ番号のつけ方になってしまっているのです。吉田さん、どちらにするかをまず決めましょう。資料1の側の目次にするか、それとも、今入っている形の目次にするか。

○吉田（和） 参事官 資料1のほうで、全体像が見渡せるような形で。

○福和主査 そうするとぐっと中身が見える目次になりますから、章立てのところではグレイドが違ふとかという議論にならずに済むので、事務局がより重要だと感じている部分については、もうちょっと下の項目まで入れるということを前提でいいですか。

○吉田（和） 参事官 はい。

○福和主査 それを前提にいただいた上で、まずは「防災庁の必要性」、1ページ～2ページにかけてのコメントをいただければと思います。

お願いします。

○菅野構成員 ありがとうございます。

様々入れていただいた上で、どこに入れるかとかも含めてなのですが、現状、例えば被災者支援の部分とかは、かなり中長期にわたっていろいろな課題が出るのですが、それを検証する枠組みがないというのが今の内閣府の限界かなと思っています。大体初動対応が3か月なり半年で終わってしまって、本当は生活再建なんて2年も3年も5年もかかるのに検証できない。なので、どこかに個別災害の中長期的な検証作業みたいなものを入れ込む必要があるかなと思っています。これこそができていないことで、要は積み残してしまう、法律をいっぱいつくってしまったということなので、例えば2ページの4の30行目のポツぐらいですか。32行目、ほぼパンク寸前の状態であり、被害を未然に防止・軽減するための方策みたいのところ、例えば個別災害の中長期的な検証作業が十分には実施できずとか、こういったものを入れなければいけない。

絡めてなのですが、そう書くと自動的に3ページの13行目の防災に関する基本政策の中の15行目辺りに、多様な経験と高度な知見を基に、個別災害の中長期的な検証を踏まえた上で、過去の制約やみたいな、この短期検証以外の機能をちゃんと位置づけてあげるということはすごく大事なことかなと思っています。それで具体策の4のほうにも恐らくそういう文言がどこかに入り、ここの一連を入れていただくといいかなというのがまず1点目になります。1点目というか、必要性の部分になります。

○福和主査 まだありますか。

○菅野構成員 必要性の部分には絡まないのですが。

○福和主査 後ろのほうの話は後で。

○菅野構成員 それであれば、まずここまでで。

○福和主査 今、中長期的に災害の検証をするという事柄が一つ出てきました。そういう意味で言うと、例えばこれから来る災害に対しての対策がちゃんと毎年できているかどうかというモニタリングもちゃんとやらないといけないということもあるから、全体としての検証作業について書けていない、検証作業についてちゃんとできているかどうかを、毎年ということも大事だし、中長期的ということも大事だから、そういう感じでどうでしょうか。それを今後の災害に生かしていくということになるはずだから。

○菅野構成員 例えば東日本大震災だと、ちゃんとできたかどうかはあるのかもしれませんが、復興庁は一応ずっと見ているという作業をしているわけですよ。でも、多分唯一あれだけの長いもので見た。この機能がないから抜けていたということだと思うので、その意図でということ。一個一個毎年レビューするというよりは、ちゃんと一つの災害を何年間のスパンで大きいものを見る。

○福和主査 起きた災害についてはね。実はこれから起きることについても、そういうことがあまり書いていないのです。ちゃんとモニタリングして、できていないことはちゃんと改善していくということもあるので、何となくそういうくくりの中で、防災庁は各省に全部委ねてしまっているところを、自分たちでちゃんとそういう検証を中長期的にも、毎年チェックをして、PDCAを回せるようにしていくで流れるにはいいですか。

○菅野構成員 はい。

○福和主査 そのような一文をどこに入れるといいのかということも含めて、事務局で今、考えてみてください。本間さん。できれば、まだちょっと時間があるから、ここにこういう文章を入れたいと思いますというのを考えていただいて、菅野委員とこれでいいかなと。

○菅野構成員 説教部屋に行くということですね。

○福和主査 そうです。そして成案に持ってきてください。いいですか。

○菅野構成員 はい。

○福和主査 では、案文を本間さんのほうで作ってもらいます。

そのほかいかがでしょう。よろしいですか。

では、次へ行ってみたいと思います。「Ⅱ．防災庁の基本理念と果たすべき役割」、3ページ、1ページを御覧になって、改善すべき点等があれば御指摘いただければと思います。

江口委員。

○江口構成員 俯瞰するとともにとあるのですけれども、俯瞰という言葉がどうもしっくりこないのですが、皆さん。

○福和主査 だから提案をいただきたいのです。

○江口構成員 俯瞰の違和感しなくて、すみません、代替案はないのですけれども、俯瞰という言葉は皆さんしっくりこられているかどうか、合っている言葉なのか。その認識をお聞きしたかったです。

○福和主査 今のところは御意見は江口委員からだけしか出てきていないので。

○江口構成員 僕の理解としては、今、各省庁で実際の対策は立てていて、各省庁ごとにはきちんとその範囲で物を見て、対策を最適化している。けれども、縦割りの隙間だとか、国・都道府県・市町村との隙間、いろいろなところに隙間があると。隙間があることを見つけようと思うと、全体を俯瞰すると。そういう意味で前回は俯瞰という言葉は僕は使ったつもりです。局所最適ではなくて、全体最適にするためのベースとして、必要条件として、俯瞰する機能が必要だというニュアンスです。

○福和主査 言葉として別にいい言葉があればいいのですけれども、このところ、いろいろな文書に俯瞰という言葉は一般的にはよく使われているように感じられます。この文書だけではなく、他の内閣府防災で作っている文書は比較的多いので、対案があれば議論ができるのですけれども。

○江口構成員 みんな違和感がなければ。伝わるかな。

○石井構成員 でも、割とビジネス用語でよく使われるような気はしますけれどもね。全体を見るとか言ってしまうと稚拙な感じになってしまうから、俯瞰と。

○河田構成員 ちょっと難しくしておいたほうがいいでしょう。単純にするより難しくしておいたほうがいいと思います。だって、それぞれの人のレベルで内容が決まりますので、単純にしてしまうと逆にまずい。

○喜連川構成員 LINE、ヤフーは単純と聞こえてしまうからよくないですよ。LINEはもっと複雑なことを考えてここまで至っているのだから、江口さんが俯瞰が分かりにくいと言われると、困ってしまいますね。

○江口構成員 僕は、俯瞰は書けないのですけれども読めますから、理解はしています。

○福和主査 今のはいいですか。今のようなこういう言葉のほうがいいんじゃないとかというときは、ぜひ必ず対案を出しながらということにさせていただきます。そうでないと生産的にならないので。

3 ページについてはその他よろしいでしょうか。

○臼田構成員 これは後でもいいかもしれないのですが、全体的にもここで言う2の(2)が一番大きく取り扱われる。それはとてもいいのですけれども、そのときの(3)が結構(2)の中身の繰り返しになっていたりもするなというのは全体としてあります。なので、後で戻ってきてでもいいと思うのですけれども、例えば(3)における緊密なコミュニケーションとかコーディネートというのは(2)にも絶対出てくる言葉なので、先に(2)で言うことをいっぱい言って、あと全体では(1)がすごく少ないのです。(1)(3)を小さくして、(2)に全部詰め込むというのも一ついいかなと思うので、(3)に入れたキーワードが(2)に出てこないのが若干違和感があるなと思いました。

○福和主査 どうでしょうか。

○臼田構成員 ここは後でもいいです。具体的な話をした上で、これは(3)にしか残らないというものはここに載っていていいのですけれども、(2)にも入れている文言をここに入れてしまうと、ここで見たときには(2)にはないみたいに見えるのが違和感を覚

えたところでは。

○福和主査 逆に言うと、(3)の一部を(2)の中に移せという提案ですか。

○臼田構成員 繰り返しにならないほうがいいかなとは思いますが。

○福和主査 これは臼田委員、後までに案を考えてみてください。こういうふうに移動するといいたいという。

よろしいですか。

4ページへ行って、具体的な施策、大きなⅢ番になります。

○榛沢構成員 その前のところで、防災庁の行動原則の中に。

○福和主査 3ページの下のところですね。

○榛沢構成員 平時の行動原則で、常に正常性バイアスと戦う、これはちょっと違和感があるのです。異常事態はいいのですけれども、平時に正常性バイアスと戦ってどうするのですか。

○福和主査 何か提案をしてください。

○榛沢構成員 なくていいと思います。

○福和主査 これそのものですか。

○榛沢構成員 平時には正常性バイアスが要るかなというところなので、ちょっと違和感。

○福和主査 平時の正常性バイアスというのは。

○石井構成員 正常性バイアスがなかったら、私たち人間は社会生活ができませんから、平時にこれと戦うのはちょっとおかしい。

○福和主査 事務局の意図は。

○吉田(和) 参事官 事務局として書いた趣旨は、ある意味、職員として行動原則としてこういうふうを考えていきたいと思いますという趣旨で、防災庁の職員が平時に行動原則として考えるときに、常に正常性バイアスと戦っていくためにいろいろな事前準備とか事前防災をやらなければいけないよということを念頭に政策を考えたりということをやっているのだということで、平時からそれを念頭に置いたことをやっていきたいと思いますという趣旨で書かせていただいたので、常に職員自体は。

○石井構成員 病んじゃいますよ。

○吉田(和) 参事官 政策として、発災時に正常性バイアスを前提としたものを考えていかなければいけないということを念頭に置いて政策を考えようということを書いています。

○福和主査 だんだん分からなくなってきたのですけれども。

○江口構成員 正常性バイアスという言葉は誤用されていると思うので、やめるべきだと思う。趣旨は分かるのですけれども、そこの正常性バイアスは。

○福和主査 この場所に入れるのは不適切であるという意見が多いのですけれども、事務局的にはどうされますか。

○江口構成員 今までの常識を疑う的な話だったら分かる。正常性バイアスを疑ったら逆の意味になってしまう。

○吉田（和） 参事官 戦うということ。

○福和主査 言わんとすることをもう少し適切な言葉で表現しましょうということだと思います。今のような趣旨の回答だったら、榛沢委員、どういう言葉に換えればいいでしょうか。今の事務局の説明を受け取った上で、こういう表現がいいのではないのというのは。

○榛沢構成員 正常性バイアスを検討するとか、ふだんから正常性バイアスについて研究するとか。

○福和主査 分かりました。そういう趣旨。ちょっと違う。では、ちょっと違うと思った人でそれぞれ提案を考えてください。提案を考えていただいた上で、向こうへ行ってみますと、吉田参事官と後で検討いただきます。この言葉は今日の会議中に何か換えるということにさせていただきます。いいですか。

本間さんのほうで、さっきの案ができた。菅野委員、向こうへ行ってみて協議してきてください。Ⅲのところでは何か言わないといけないことはありますか。4ページからです。

○菅野構成員 「防災に関する基本政策・国家戦略の立案」の部分で、12行目のところに防災体制の在り方と書いてあるのです。実は今回あまり全体に本当は必要なのに触れられていないことが、自治体、市町村がやるの、都道府県がやるの、国がやるのみたいな、この部分はあまり踏み込めていないように実は感じていますので、防災体制の在り方というの、国の中の役割分担とかは結構どうしようかという話が出るのですが、全体に書けないこともあるのだらうと思いつながらなのですが、例えばここで基本政策や様々な関係機関の役割分担を含めた防災体制の在り方みたいな形で、ちゃんとそこを考えないと市町村は死ぬぞと、こういう世界を一言入れておいていただきたいなという意見でした。

以上です。

○福和主査 丁寧に書こうとすると今御指摘のようなことだと思いますけれども、事務局的には大丈夫ですか。4ページ目の12行目の文章を、防災体制と言うと国の中だけのものに解釈されがちなので、その前に、様々な関係機関の役割も含めた防災体制というような文章に換えるということでもいいですね。より具体的にしたということです。

○吉田（和） 参事官 かしこまりました。

○福和主査 それから、そのほかいいでしょうか。

○加藤構成員 2ページに戻ってしまうのですが、2ページの4の防災庁の必要性で、現行の内閣府防災担当の限界というのが書いてあって。

○福和主査 何行目ですか。

○加藤構成員 4の最初の○2つは現行の内閣府防災担当の限界があって、次、縦割りなどの隙間が存在していると。必要ですよという展開で、菅野先生が検証が不十分というのもありました。加えて、ニーズに対してリソースが足りていないということをここにしっかり書いたほうがいいのではないかなと思いました。書き方はお任せします。

○福和主査 どこに書くのがいいかという提案もついでにしてください。

○加藤構成員 3つ目の○と4つ目の○の間に、そもそもリソースが大規模災害のニーズ

に対して。

○福和主査 大規模災害ではということと言わないといけない。

○加藤構成員 でも、能登半島ぐらいでも足りていない感じがするのです。

○福和主査 それは文章を考えてみてください。ここに挿入する1～2行の文章。

今みたいな事柄を入れることに関しては、皆さんどうでしょうか。需給バランスが全然成り立っていないので、そういう〇を1個追記ということについては、事務局も含めて大丈夫でしょうか。よろしいですか。

(委員首肯)

○福和主査 加藤委員が先に考えるか、事務局で誰か考えるか。頑張って大山さん、作文してください。事務局が足りなくなってくる。よろしいでしょうか。

できる限り前に戻らずに、それぞれのところで言い尽くしておいてほしいので、いいですか。4ページのところにもう一回戻ります。4、5、6、7、8、9ページ、多いですね。

私、1個だけ言わせてください。4ページの27行目、民間・個人の取組も戦略的に推進すると言うと付け足しのように感じるので、民間・個人の取組を戦略的にとしないと、これが多分一番やってもらわないと被害が減らないので、とても細かいことですが、これだけを変えたほうがいいのかと思いました。

榛沢委員。

○榛沢構成員 5ページの21行目の②の被災者ニーズに応じた被災者支援はよくないので、世界基準に準拠したとか、スフィア基準に準拠した被災者支援体制の構築、下のほうに標準化とありますし、ニーズに合わせてだったらたくさんあり過ぎてしまっただろうがないので、被災者ニーズというのはやめたほうがいいと思います。

○福和主査 世界基準に準拠したぐらいでいいですか。

○榛沢構成員 はい。

○福和主査 いかがでしょうか。そういう修正提案について、よろしいでしょうか。

(委員首肯)

○福和主査 事務局もよろしいですか。

タイトルです。5ページの21行目の被災者ニーズに応じたというところを、世界基準に準拠した。

○榛沢構成員 スフィア基準でもいいですけども。

○福和主査 それは事務局判断がありそうなタイトルなので。

○廣井構成員 反対なのですが、同じ5ページの22行目で、配分可能なリソースを考慮しつつ、あくまで対応できる量というのは相対的なものであるよとここで言うのに、世界基準という絶対的な基準を当てはめることは本来の趣旨に反するような気がするのです。

○榛沢構成員 個別にやっていたら切りがないので、やはり標準を決めてやる必要がある

と思うので、やはり世界標準。

○廣井構成員 今、それはできないという話をしているではないですか。

○福和主査 需給バランスの中でそれは単純に苦しいのです。

○廣井構成員 できないこともあるんだよという話をしている中で、世界基準という絶対的基準を入れるのは。

○榛沢構成員 目標は決めなければしょうがないですよ。

○廣井構成員 そうですけれども、無理ですよという話を前のほうでしているのに。

○榛沢構成員 無理だけれどもと諦めたら何もならないですよ。

○福和主査 目指したとか。準拠したと言うと苦しいので、目指すということは僕はありだと思えるのですけれども、廣井委員の趣旨も私は分かるので、世界基準を目指したとか、そういう表現でどうでしょう。あくまでもそれは目標として常に考えないといけない。けれども、あまりにも災害が多いと、少し下げてでもいいから、より多くの人を救うというようなことも考えないといけないので。

○石井構成員 スフィア基準は基本、最低基準なので。

○福和主査 今、最低基準ができるほどリソースがないのですよ。

○石井構成員 ないと決めつけるのもどうかと思うのですけれども、そこを目指すのであったら、世界標準とは何のことだか分からなくなってしまうので、一応国会でもスフィア基準はもう今一般的に使われるようになっていっているので、世界標準というのは、何の標準とかえって分からなくなるような気がするのです。

○福和主査 基準が変化しませんか。

○石井構成員 スフィア基準はもちろん何年かに一遍ぐらいバージョンアップしたりはしますけれども、基本、被災者支援のところは、世界標準と言ってしまおうとかえって分かりにくくなるのではないですか。

○福和主査 事務局に委ねてもいいですか。この言葉の使い方は結構重要で、何から何までできないような災害が大前提で「はじめに」を書いてあるということを受けておかないといけないところなので、タイトルとしては、最大の努力は当然しないといけないのですけれども、どこまで書けるか。ここはそういう判断に委ねさせていただいてもいいでしょうか。目指すとかだったら書きやすい。いいでしょうか。

(「はい」と声あり)

○福和主査 では、今のようなことにさせてください。

そのほか。

○石井構成員 5ページの12行目、13行目なのですが、確かに書いてあることは間違っていないと思うのですが、ここだけいきなり家屋の耐震化や家具の固定とか具体的な行動が出てきていてすごく違和感を覚えるのですけれども、ほかの並びとあまりにも違う気がするのですが、これはあったほうがいいのか。

○福和主査 被害を減らすには、ここまで具体でない限り多分減らないのです。ほとんど

の人が、これが原因で命を落したりけがをしているので、国民の行動としては、ここは具体的に書いておかないと促せないとは思いますが、いかがでしょう。

○河田構成員 能登の被害はまさにここで出ているのです。

○福和主査 今までこういう仕事をしてきた人たちにとっては、これは必須。

○石井構成員 もちろんそのことは分かっているのですけれども、ほかの文章の並びと。

割と抽象的な表現が、全体を含んだような表現が並んでいるところに、ここだけ個別具体的な印象を受けるのです。

○福和主査 恐らく早期避難の徹底というのも同じ並びなのです。命を守るための3要素なので、ここを変えるかどうか。

○廣井構成員 むしろ初期消火の訓練も入れていただきたいのです。

○福和主査 というふうが増えてくるのですけれども、それもありますね。

○廣井構成員 極めてエッセンシャルな、これさえできればと誰しもが思っている内容なので、ここは書いたほうが良いと思う。

○福和主査 具体的に国民にやってもらわなくてはいけないことは、今の初期消火も含めて、ここは記述してあったほうが望ましいと思いますので、初期消火も書きますか。増えてしまうけれども、事務局的にはいいですか。個人の努力についてなので。

そのほかいかがでしょう。

山本委員。

○山本構成員 8ページの22行目、人材育成・研修システムの構築のところなのですからけれども、ここはいろいろICSとかも頑張ってもらって本当に感謝感謝なのですが、教育をかなり重んじないと人は結局育たないので、FEMAがいいとは全然言わないですけれども、あそこの骨格はほぼ教育そのものなので、括弧のところは日本版NDEMUという、FEMAの学校のことですけれども、その検討を前のものに倣って、いきなりつくるとか言うところすごくハレーションが起きるような気がするので、括弧で日本版NDEMUの検討で、略語はまた後であれしませんが、入れていただくと、これの重みが、何となく今までの研修を集めただけというだけでは僕はいけないような気がするので、ぜひ入れたいなと思っています。

○福和主査 どこにどう書けばいいですか。

○山本構成員 22行目の人材育成・研修システムの構築の後に「(日本版NDEMUの検討)、」で大丈夫です。

○福和主査 この話と、防災大学というような言葉が後ろに出てきていることと、どういうふうに関係があるのか。

○山本構成員 防災大学は出てきますか。

○福和主査 後で出てくるんですよ。

○山本構成員 僕、見逃していた。どこでしたか。

○福和主査 どこか後ろのほうに出てくるのです。

- 吉田（和）参事官 現状なくなっていますので、書くならここに書く。
- 山本構成員 防災大学でも全然いいのですけれども、文科省さんとの所掌の関係もございまして、調整が必要になってくるかと思いますが、日本版何ちゃらと書いておいたほうがいいのかなど思ったのです。
- 石井構成員 防災大学は多分文科省管轄ではない。
- 福和主査 ならないです。大学校になると思いますから。
- 山本構成員 NDEMUという言葉が入ると、みんな何なのだろうと一生懸命調べると、結構一生懸命教えているのだなということが分かるかなと思って書かせていただいた。別にアメリカが正しいと思っているのではなくて、方法論で盗めばいいと思っているだけです。
- 福和主査 防災大学校的な言葉は今は消えてしまったのですか。
- 吉田（和）参事官 入れて大丈夫だとは思っています。
- 福和主査 入れて大丈夫ですか。
- 山本構成員 いわゆる防災大学でもいいのですけれども。
- 吉田（和）参事官 ちょっと泳げる感じで。
- 福和主査 事務局が泳ぎやすいように。
- 山本構成員 大学が刺激的であれば、防災大学校でもいいかもしれません。
- 福和主査 アメリカのものの日本版と書くと、何となく日本独自性がなくなってしまうかもしれないから、それは踏まえつつ、教育機関的なものをここに書けばいいですか。
- 山本構成員 要は組織化するぞというところが出ればいいのかと思います。
- 福和主査 これは事務局的には受け入れられますか。
- 吉田（和）参事官 承知しました。
- 福和主査 ここに、防災大学にするか、防災大学校にするか分からないですけれども、そういうものを追記します。事務局のほうで考えてもらいます。
そのほかによろしいでしょうか。今はⅢ全体なので、9ページまで全部入っています。多いですよ。でも、そのぐらい多くしておかないと、もう時間が。
どうぞ。
- 榛沢構成員 初動体制というところで、災害対策本部にといつも思うのですけれども。
- 福和主査 何ページでしょう。
- 榛沢構成員 9ページの（1）の初動体制というのがちょっと曖昧で、初動体制というのは人命救助なのか、被災者支援なのか、並行だというならば並行とやらないと、必ず災害対策本部は人命救助をやっているから被災者支援はできませんというか、後にしてくださいと言われてしまうのです。だから、両方とも一緒にやるというような形をどこかで書いてもらわないと、分かるのですけれども、人命救助は警察、消防、自衛隊にお任せして、行政の方たちは被災者の支援に回るべきなのだけれども、人命救助のほうに行ってしまうと、なかなか私たちが行っても、今は人命救助をやっているから対応できませんと言われてしまうのです。そこのところを分かるようにやらないと、初動体制というのは並行にや

るのだということを書き。どうしたらいいかわからないですけれども、初動体制を入れたとして、人命救助、被災者支援、インフラ・ライフラインの応急復旧などを並行に行いとか、そういうことはどうでしょうか。

○福和主査 ここは事務局的に大丈夫ですか。どこまでが同時にやれるかということを入れないと駄目なので、初動体制の構築のところで、今の御意見は、人命救助と同時に被災者支援も動いていないと、例えば関連死発生に関わってくるから、それは人命救助という人命の救助は消防的な、あるいは自衛隊的なものだけではなくて、恐らく避難所環境のことも含めということを意図した御発言だと理解しました。

○吉田（和）参事官 当然その意味で書いている。

○福和主査 書いていますよね。ここは今、榛沢委員のほうでは、同時に3つが動いてくれるという印象を持ちにくいのだそうです。それをどう改善したらいいか、榛沢委員のほうでちょっと提案してみてください。そうすると直してくれますから。

そのほかいかがでしょう。

白田委員。

○白田構成員 大きい話になってしまうかもしれないのですが、8～9ページの3.に(1)(2)(3)(4)(5)と括弧付がありますよね。5つのうち、(1)と(4)と(5)は事前から準備すると書いてあるのですけれども、(2)と(3)は事前の準備にひもづいていないのが気になりました。整理したほうの絵でいくと、2の(2)の①②③が3.の(1)(4)(5)ときれいにひもづいていて、それだったら(2)(3)についても事前準備でやることを書いたほうがいいのではないかと思いますし、それをやるとただただくどくなるので、(2)の対応力強化の事前準備と書いたことは、3.では、(2)の対応力強化の事前準備で書いたことはしっかり実行するみたいなまとめた一言で終わらせてもいいのかなと思います。ちょっと中途半端な感じかなと思いました。

○福和主査 事務局的に交通整理の話になってくるので、初動も含めて災害後の対応をしようとする、事前にそういう準備をしないといけないはずだから、今、具体的に3で書いてある5項目のうち、一部が事前準備側に書いていないけれどもどうなっているのという御指摘で、情報環境のところはDX絡みで別のところで受けてしまっている。

○白田構成員 横断のところに個別のものが入ってしまっているから。

○吉田（和）参事官 ある意味(2)と(3)は初動の中の一要素なのですけれども、(2)(3)で立てていて、対応関係ができていないという感じだと思いますので、そこを中で整理してというのは。

○福和主査 多分より大事だと思っているから、横断的なところに(2)とかは入れてしまっているのだと思うのです。ここは難しい。だから、横断的なほうがより大きな位置づけで書いてあるから、抜け漏れがないかどうかだけ見ておくと、2は多分横断的なところに入れてあるからいいかなと。

もう一つの問題はどれでしたか。

○臼田構成員 (3)のワンストップ窓口は平時にもあっていいと思うのです。平時の(3)の②のところにワンストップ窓口があってもいいと思います。平時は防災庁はワンストップ窓口にならないのでしょうか。

○福和主査 これは体制づくりのところの話。

○臼田構成員 でも、(2)の②のところに、様々な関係者の力を結集した連携体制の構築とあるので、●のところに防災庁はワンストップ窓口となりとか書いてあればいいのではないかなと思いました。

○福和主査 それは大丈夫ですか。具体的にどこでしたか。

○臼田構成員 6ページの31行目のこの辺の文章のどこかに、防災庁はという主語がどこにもないのですけれども、ワンストップ窓口となりとか、もうちょっと言うと緊密なコミュニケーションを取りとか、コーディネートをしという言葉も入ると、それが全て災害時にもつながるように思います。単語だけです。

○福和主査 9ページの(3)で書こうとしていた事柄の要点だけでもいいから、6ページの31行目の連携体制の構築というところに、キーワードを多少入れませんかという感じですよ。

○臼田構成員 餅は餅屋が書いてあるから、ワンストップ窓口はあっていいと思うのですけれども。

○吉田(和) 参事官 ある意味、コーディネートとか緊密なコミュニケーションはどんどん進めていくということで書きたいと思いますが、ワンストップ窓口というのは、発災後に行き場のない声をしっかり集中して受け取るということかなと思っていて、発災後のところで強調して書くのがいいかなということでこういう感じにしております。

○福和主査 ワンストップ窓口という言葉はあまり強調せずに、防災庁が中核となって窓口となるというぐらいでどうでしょう。

○臼田構成員 平時もどこに聞いたらいいか分からない。

○福和主査 それは大事なので。

○臼田構成員 それは防災庁がまず窓口になってくれるといいなと思います。

○福和主査 分かりました。そうしたら、9ページの(3)に書いてあるところが平時に受け止められるように、少し6ページの文章を工夫していただくでいいですか。書いてみたものを。もうできました。こういうペースでやっていかないと。臼田委員、いいですか。納得ですか。

○臼田構成員 コーディネートという言葉もあったほうがいいです。

○福和主査 修正して、後で発言してください。

石井構成員。

○石井構成員 6ページの36行目からなのですけれども、国・都道府県・市町村間の役割分担の明確化というのは今までもやってきているといえやってくるのですけれども、もちろん地方自治体の対応力強化も必要なのですが、避難所のことばかりで申し訳ないで

すけれども、本来は都道府県にその監督義務みたいなものがあるはずなのだけれども、都道府県は避難所は市区町村だからといって全然関与しない。ちょっと前に新聞社の方が調査されたデータなんかもあるのですけれども、地方自治体の対応力強化も必要なだけれども、必要に応じてちゃんとちゅうちょせずに都道府県や国がそこを補完する、そこを強化していけるのが防災庁なんだなみたいな書きぶりにしたほうがいいのではないかなと思います。

○福和主査 それは最初の国・都道府県・市町村間の役割分担という言葉で今全部受けていて、下の地方自治体というのは、都道府県も地方自治体だと思って書いているのだと思います。今の意図は書こうとしているのです。

○石井構成員 もうちょっと分かりやすく書いていただけるといいかなと。

○福和主査 そうすると今度は一つだけの個別具体的になってしまうから、このぐらいで受け取っておいたほうがちゃんとやってくれる気がします。ほかのことも含めて。

○石井構成員 支援体制の構築。支援体制は今までもあるわけですよ。

○福和主査 それが今までは不十分だったわけです。それを見直す。

○石井構成員 ちゅうちょなくもうちょっと強化するような意味合い。支援体制の構築だと、今までにない体制をつくるという意味合いになってしまうので、その次の国・都道府県による支援体制の構築、37行目です。体制自体は今までもあるわけで、そこがあまりスムーズに円滑に進まないという課題があるわけで。

○福和主査 だったら構築ではなくて強化ぐらいにしますか。

○石井構成員 その意味を強めたほうがいいと思います。

○福和主査 そのぐらいが多分落としどころとしてはある気がします。

○河田構成員 実際に今、関西広域連合ができていでしょう。結局お金を誰が出すかで決まってしまうのです。だから、ここの表現をどう変えても、要するに経費をどうするかということをやらないと実効性が全く期待できない。ですから、今日の最後の議論で、体制をどうするかはとても大事で、この辺の表現はどう変えても、必要な経費をどうするというを議論しない限りは、曖昧模糊になってしまう。

○福和主査 それはおっしゃるとおりなので、予算の分取りをしやすくするために、取りあえずここは構築を強化にするぐらいで一回ここは落としておくということでもいいですか。では、これは強化ということにしましょう。

そのほか。

矢守委員。

○矢守構成員 細かなことです。まず、黄色いラインを引いていただいたところ、幾つか私が事前に申し上げたことを拾っていただいて、事務局の皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

細かいことというのは、7ページの40行目と一番ラストの43行目なのですけれども、この項目のところは、要するに「必要がある」を取らないと駄目という、ただそれだけです。

提言モードで書いてあるセクションなので。

同じことがもう一か所、9ページのラスト40行目、「取り組んでいく必要がある」とこれもなっているので、国土利用を目指して社会全体での取組を推進するとか、書きぶりだけの問題ですけれども、気づきましたので。

以上です。

○福和主査 ありがとうございます。

大事な指摘で、「必要である」と言ってしまうと逃げが入ってしまうので、「やる」ともう明快に書くということで、事務局のほうもよろしいでしょうか。決断をするということで、ありがとうございます。そういう逃げの文章があったらどんどん見つけてください。

榛沢委員、お願いします。

○榛沢構成員 9ページの21行目のNPO/NGOのボランティアとの連携ではなくて協働のほうがいいと思うのです。一緒にやっていると。

○福和主査 一緒に働きますからね。これは共に働くで「共働」にしていきましょう。よろしいでしょうか。連携というのは意外とそういうのはあるから、やばいのですよね。

○明城構成員 「共に」というよりも、協力の「協」。

○福和主査 そうです、コラボレーションの「協」。

加藤委員。

○加藤構成員 2点なのですけれども、7ページのiii、民間企業などの専門性の活用というところなのですが、専門性を活用しようということなのだけれども、先ほど課題として挙げたリソースが足りないといったときに、民間セクター側にたくさんリソースがあるので、民間企業などのリソースの活用とあって、現物としてのリソースをそこから持ってくるという話と、それから、専門性を活用すると書いたほうがいいと思います。

○福和主査 タイトルも含めて。

○加藤構成員 そうです。

○福和主査 これは専門性だけではなくて、持っている重機とか、資機材とか、そういったものも活用するということにしたいと思います。

○加藤構成員 人も含めてですね。

○福和主査 個人的には人というのは結構大事だと思っていて、製造業とかは止まってしまっているので、止まってしまったときの製造業の職員の人たちを、公務員的にある程度組織として使えるようにするのはありかなと思いますので、そこは何か強化できるといいかな。当然だけれども、もちろんお金は出すのですよ。

○江口構成員 分かるのですけれども、民間は復興しなければいけないのにリソースがそっちに取られるというのは。

○福和主査 例えばトヨタで言うと、会社を1か月止めるのですよ。止めたところの人たちの人材を活用する仕組みはつくっていったほうが得なので、別に企業に迷惑をかけることではなくて、使えるものは使いたいという趣旨だと思います。

- 加藤構成員 そうです。特に被災地外の民間リソースも多分使えると思う。被災地内でも使える。
- 江口構成員 趣旨は理解をされていて、書きぶりを考えると嫌だなと思っているぐらいです。
- 加藤構成員 強制的に動員されるみたいなの。
- 福和主査 というのと、お金の問題と、この間から御指摘を受けているので、そこは国がちゃんと対等の立場で。
- 加藤構成員 現段階では明らかにリソース不足だから、それを増やしていくという方向性を示して、具体的な増やし方についてはおいおい考えていくということですからね。
- 福和主査 これから検討でいいので、リソースというのは入れておいたほうがいいということ、いいですか。専門性だけではなくて民間の持つリソース。よろしいですか。
- 江口委員は何か言いたそうな顔をしていますけれども。
- 江口構成員 書きぶり次第かな。
- 喜連川構成員 それはそう思いますね。例えば積極的に協力を仰ぐとか、それならいいのだけれども、活用というのは上から目線が過ぎるような。
- 福和主査 確かに。
- 江口構成員 活用するというのは上から目線が過ぎる。
- 福和主査 どういう言葉がいいのでしょうか。
- 江口構成員 今、喜連川先生が言われました。
- 喜連川構成員 積極的に協力を要請する。
- 福和主査 そのぐらいでいけますか。
- 喜連川構成員 これは江口委員の気持ち次第です。僕、企業じゃない。でも、誰から見てもちょっと上から目線。
- 江口構成員 指示をされるみたいな感じですよ。
- 福和主査 これも吉田参事官がすばらしい言葉を探していただけるということにして、意図は御理解いただいて、行政が上から目線でやるのを避けるような言葉探しをしてみてください。
- そういうことでいいですか、江口委員。
- 江口構成員 はい。
- 石井構成員 むしろ防災庁は企業が参画しやすいシステムをつくるということですよ。
- 江口構成員 そうそう。だから、こっちから出すぞと言ったときに受け取る仕組み。
- 石井構成員 受け取る側がちゃんと準備していてほしいということですよ。
- 江口構成員 工場が止まっているからその人材は余っているだろうみたいな話になってくると全然話は違って、出せるわけがないのですよ。1か月止まっている人員を出すかということ、普通出さないです。
- 福和主査 いろいろなやり方があるので、具体的に議論もし始めているので、全く否定す

るものではない気がしているので。

○加藤構成員 だから、そういうことにも配慮しながら。

○石井構成員 企業の参画をとにかくどうしたら促進できるか。

○福和主査 逆に言えば、企業にとっても早く社会が復活してくれたほうが企業活動が始まるので、ウィン・ウィンになるように仕組みをつくってあげれば良いと思うのです。

○江口構成員 製造業とかのワーカーはそうで、知的労働者とかいうと必ずしもそうではないので。

○菅野構成員 ひとつ提案で、専門性・リソースを持つ民間企業の参画拡大とか、そんな言い方ですか。

○喜連川構成員 そんな感じですね。

○福和主査 いいですね。もう一回言って。

○菅野構成員 専門性・リソースを持つ民間企業の参画拡大。「等」というのは何で入っているのか分からない。「等」も入れておいてもいいんですかね。何かあるのでしょうかね。民間企業等の参画。

○福和主査 よろしいですか。ちょっとタイトルがよりよくなりましたから、前向きな提案ありがとうございます。

○加藤構成員 もう一点なのですけれども、質問です。6 ページの i の 4 つ目のひし形で、リスク認知パラドックスに対応するため云々の基盤技術の構築などを推進するという、この基盤技術のイメージが全然湧かないなと思って質問です。

○福和主査 これは、これを書かれた方から説明をいただかないと。

○吉田（和） 参事官 これはある意味、デジタル技術を活用しながら、それぞれの個人に応じたリスク状況なんかを提供しながら、それぞれの判断を促すみたいな意味合いで書かせていただいております。

○加藤構成員 マイ・タイムラインみたいなイメージ。

○吉田（和） 参事官 はい。というものも含めて。

○江口構成員 そういうのすらやらない人たちへのアプローチなはず。

○喜連川構成員 括弧でくくってあるから、何かマジックがあるのかなと思っています。括弧がよく分からない。

○福和主査 提案を。今の質問に関して納得ができたかどうかを加藤委員のほうから言っていただいて、改善するのであればしないといけないので。

○加藤構成員 1 行目は要りますかと。個人個人の意識を高めるような基盤技術をもっとつくっていきましょうという、それだけでいいですか。

○吉田（和） 参事官 要素としては、技術も活用しながら、そういう行動変容につなげていくということが書きたいなというところでした。

○福和主査 6 ページの 21 行目のところですが、まずは何が問題になっているのか

がまだ認識できていないのです。

○大木構成員 趣旨は、デジタルを防災教育の項目に何か入れようとして出てきたものなのですか。頑張っただigitalを防災教育に入れようとして出てきたものという感じなのですか。

○吉田（和）参事官 防災教育のところ、実は2つ目の四角の後段のほうで、地域の災害リスクを感覚的に認識して、デジタル技術の活用にも取り組むというところで、デジタル防災教育みたいなのは入れております。

○加藤構成員 個人に対するデジタル教育が2つ目のひし形で、4つ目のひし形は。

○吉田(和)参事官 そういう意味ではあまり書き分けが明確にはできていなかったの。

○福和主査 4番が要るのかどうかという議論も含んでいるのですか。

○加藤構成員 そうです。

○喜連川構成員 4番は要ると思いますけれども、3行のうちの最初の1行が、要するに防災のバイトダンスをつくると思えばいいわけです。けれども、リスク認知パラドックスというキーワードで全ての問題が表出されているのかが分かりにくいという御指摘なので、先ほど難しいほうがいいのだとおっしゃる御意見もあって、分かりやすくしないといけないというパラドックスがあるので難しいのですが。

○福和主査 そうすると今の御提案は、1行目は削って、個々人のリスクから始めるということですね。基盤技術というキーワードが分かりにくいということであれば、このキーワードを別の言葉にしないといけないのですか。

○加藤構成員 具体的なイメージがあれば、それはそれでいいと思うのです。

○喜連川構成員 ここで言っている基盤技術というのはnがすごく大きいので、ちょろちょろとした技術ではもたないと。LINEさんが3.11でたまたまつくってしまったみたいな話を通信であれば簡単にできるわけです。でも、声の最適化をやろうと思うと、さっき言ったバイトダンスというのは原則TikTokなわけですがけれども、あれぐらいプロファイルしなければいけないので、相当深いからこういう表現になっているのではないかと思いますけれども、僕が書いたわけではないので、吉田参事官の意図を推察しているだけです。

○福和主査 では、この言葉を残すということでもいいですか。

○加藤構成員 はい。

○福和主査 1行目を削るということだけにさせていただいて、あってもいいような気もするので、基盤となる技術だから、イメージができていたのであったら、取りあえずこれは残させてください。

そのほかいかがでしょうか。

廣井委員。

○廣井構成員 すごく言いにくいことを言うのですが、4ページなのですが、若造のざれごとだと思って聞いてほしいのですが、このページに相転移が3つ出てくるのです。相転移が重要なのはすごく分かるのですがけれども、一番上の10行目の相転移は、先読みの

代表例として括弧で相転移と出てきていて、23行目には、ボトルネックの発見という意味で相転移が出てきていて、32行目はシミュレーションに基づく災害リスク評価として相転移が出てきて、それぞれ技術としては違う技術なのですけれども、全部相転移になっているというのは、やはり私は誤解を生むような気がしますので、例えば一番最初の「防災に関する基本政策・国家戦略の立案」の10行目のところに、括弧書きではなくて相転移ときちんと明記して、残りの括弧はなくしてもいいのではないかなと思いますけれども、いかがですか。技術としては多分別なものだと思うのです。全部代表例が同じものだと、ちょっと誤解が生まれるのではないかなと思います。言いにくいのですけれども言いました。

○福和主査 それについてはいかがでしょうか。

○河田構成員 まず、相転移が大切なことは何度も出さなければいけない。それから、具体的なものも示さなければいけない。こういうテクニックなのです。ですから、それを厳密に書けとおっしゃっているのです、そここのところは調整させてください。これはテクニックの問題になりますので、事務局と相談させてください。

○福和主査 分かりました。廣井委員の意見も聞きながら調整いただくということでしょうか。廣井委員もその調整の場にできれば入っていただいて、せっかく発言されたので、どういうふうに書いていくとよりよいかということこれから協議させていただくのがいいかなと思います。

片田委員。

○片田構成員 先ほどの6ページの21行目から始まる場所なのですけれども、リスク認知パラドックスを取るというのはいいと思うのですけれども、そうするといきなり「個人々のリスクを計測し」と来るのですけれども。

○福和主査 分かりにくいですね。

○片田構成員 はい、まずいと思います

○福和主査 ここは頭をいい文章に換えないといけないのですよ。何か提案をしていただけると。

○片田構成員 何を意味しているのかよく分かりません。

○福和主査 計測という言葉が余計分かりにくくさせるので。

○片田構成員 結局、一番最後だけですよね。防災行動変容を促す基盤技術の構築等を推進すると、言いたいのはここだけですよね。

○福和主査 だんだん削られてくるとそれだけになるのです。

○喜連川構成員 それは今、非常に個に合わせるような技術の状況に至っているからというのを入れたいために、リスクの計測というのは「同定し」でしょうかね。そういう副詞句を入れていると。行動変容だけだったら相手を見ないわけですよ。高齢者で、云々かんぬんで気持ちがちょっと厳しめの方とか要するにプロファイリングを丁寧にすると、そういう人たちはどうやって動かせばいいか。これをやったのがいわゆるケンブリッジ・アナリティカとかラストベルトみたいな話で、そういうものをポジティブサイドにつく

りましょうということをおっしゃっているのではないのかなと。これは誰が書いたか知らないのですけれども。

○福和主査 今の喜連川委員の御意見を尊重して、確かに計測というのは分かりにくい言葉だから、それぞれの人たちのリスクはどうあるかということをちゃんと把握しないといけないので、一言で言うと、計測を同定に変えるということかどうかという御提案だと思います。計測よりは同定のほうが分かってもらいやすい感じはしますけれども、その辺りぐらいで落としてもいいでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員首肯)

○福和主査 それ以外にこの章についてございますでしょうか。

白田委員。

○白田構成員 8ページの9行目の●で、新たな対策スキームを構築するはとていいと思うのですが、10行目の「過去の」というのはなくてもいいかなと思います。災害対応の課題や原因を分析でいいと思います。

あと、フィードバックというのも、最近はフィードバックだけではなくフィードフォワードもあるので、ここは日本語にして、「分析し、対策に反映する仕組みなど」でいいのではないかなと思います。

それと同じところなのですが、15行目のデジタル情報を有機的に活用情報は技術のほうがいいかなと思います。

○福和主査 事務局よろしいでしょうか。

過去も含めてですから、災害対応の課題で全般的には通るのではないかな。

それから、フィードバックを、原因を分析し、対策に生かすとか、反映するとか、そういう仕組みになると思います。

15行目のところは、デジタル技術、情報だけだと小さくなるから、技術全般にしようということでもいいですか。

○白田構成員 はい。

○喜連川構成員 それはあまりよろしくない。「過去の」がついているのがすごく重要なのです。「はじめに」のところを御覧いただくと分かるのですけれども。

○白田構成員 過去をやるべきではないと言っているわけではなくて、せつかく前にリアルタイムにも入っているのだから、だったらリアルタイムな課題。

○喜連川構成員 「はじめに」で教訓、教訓、教訓というのを3回以上言っているのです。教訓というのは過去なのです。一番人間が頭が悪いのは過去を振り返らないということなので、防災科研はそうかもしれないのだけれども、うちはそんなことはないのです。これは過去を振り返ることのほうがはるかに重要です。

ある意味で言うと、今はもうみんな分かっているのです。でも、そんな細かいことでけんかしていてもしょうがないので、過去は絶対に残して、過去と現在というのはよく分からない。上手にリアルタイムというのもお入れいただくことは全然反対ではないですけれ

ども、過去は物すごく重要だと思います。

○福和主査 今のことは受けて、まずは過去を残す。

○喜連川構成員 それから、その先ほどの15行目のデジタル技術を有機的に活用できるというのは、時代観から言うと今はコーパスの時代なのです。デジタル情報、デジタルコンテンツが重要な時代で、技術は実のところ誰もあまり分かっていないのです。いいと思っているだけみたいになっていますから、そういうものも今のを生かしつつ、防災科研的に入れたい文章をお入れいただくのがいいと思います。でも、ここも僕が言ったわけではないので、黄色くなっていませんけれども。

○福和主査 臼田委員から提案をしてください。今の両委員の意見をうまく酌み取るような文章にしてほしいのです。

石井委員。

○石井構成員 全然専門外ですけども、過去の課題分析があるからこそ、社会に有益なリアルタイムのモニタリングができるようになるわけですよね。

○喜連川構成員 そうでもないですけども。

○石井構成員 でも、過去の分析が先に来てもいいのかなとちょっと思ったのです。

○喜連川構成員 それはそうです。そっちのほうが先ですけども。

○石井構成員 ここを入れ替えて、リアルタイムも残したほうがいいと思うのです。

○臼田構成員 「過去の」と書くとそれに縛られてしまうから。

○福和主査 ここは悩ましくて、リアルタイムに出ているものを見ながらちょっと先を読みみたいというのが臼田委員の言わんとしているところのような気もするから、若干データ同化的な話が入ってきてしまうけれども、あまり細かいところに突っ込んでいくと苦しいので、もやっとしていてもいいかもしれない。だから、臼田委員の意見は理解するのですけれども、ここは取りあえず「過去の」は残しておいて、リアルタイムにデジタルで記録するとともにだから、リアルタイムはリアルタイムで残るから、そのぐらいにしておきましょうか。フィードバックは直したほうがいいから、これは直すと。

それから、次のデジタル情報にするか、何にするか、この言葉だけ決めてください。情報がいいのか、技術がいいのか、どういう言葉がここは適切かを。

○喜連川構成員 それは先ほどの河田先生と同じで、もうちょっと高所大所から調整しなければいけないので、それ以前に少し御相談をしたいのですけれども、違っていたらお許しいただきたいのですが、(3)のところに事務局的には横断的な取組と書いてあって、横断は、どこからどこまでを横と言っているのかよく分からないのです。

私の見方からすると、また難しいのですけれども、その下にある発災からほにやらという3. がありますよね。ここは横断の外なのです。このtable of contentsからすると。けれども、先ほど菅野先生がおっしゃったような、どういうふうに戻しているかみたいなことをきっちり見ていこうと思うと、例えばそういうことも含めてもっと横断なのです。(3)の中の横断ではなくて、もっと横断なのです。

○福和主査 分かります。だから、これ全体が場所が悪いのです。

○喜連川構成員 場所がめちゃくちゃ悪いのです。

○福和主査 それは理解ができていて、まずいよねと議論はしていて、これは丸ごと上に持っていくのかもしれないです。

○喜連川構成員 ほかのものは横断かもしれないのですけれども。

○福和主査 やはりそうではなくて、デジタルだけではなくて。

○喜連川構成員 デジタルの横断ははるかに横断なので、それは場所を御相談させていただきたいのです。

○福和主査 これは組み直しになりますから、ここで議論するにはちょっと時間が足りないので、一番僕も感じていたのは、(3)の下ではないなとは思っていて、横断的というのは必ずしも事前防災だけではないので、事前防災の下の横断になった瞬間に居心地が悪いので、体制も、後のこともありますから、ここ全体が居場所が課題としてあるように思っています。

さっきあえて目次をどうしますかとお聞きしたのはそういう意味で、目次のところで本当は大事なことが1つ下の段階になってしまっているの、見えなくなっているのです。

○喜連川構成員 そういう意味では、①②が入っているもののほうがぱっと頭に入ってくるのです。

○福和主査 それを意図して最初にお聞きしたのです。でも、そうは言いながらも、横断的の居場所がちょっと悪いなというのは先生のおっしゃるとおりなのです。でも、今日決め切れないので、横断的なものの中で、独立して上に横断で持っていくものがどれがいいか。横断というものを上に持っていった上で、そこに置くのがいいものと、そうではなくてやはり事前の中に入れておいたほうが居心地がいい項目とがあるので、今、いろいろな意見が出てしまっていますから、事務局と相談しながら、次回までに構造を見直すという宿題をいただくことでいいですか。

○喜連川構成員 もちろん結構でございます。よろしくお願いします。

○福和主査 その宿題は受け取ることでいいですか。

○吉田(和) 参事官 かしこまりました。全体的に(3)のところを新たに大きな柱としての4.に持っていくとかいうのも。

○福和主査 例えば防災教育とかは事前防災に入ったほうがいいのではないかという前回の御意見があったので、今回こうしてみたのですけれども、据わりがいいものと据わりが悪いものがあるのも確かなので、それは悩ませてくださいということでもいいでしょうか。

そうするとポンチ絵とかも全部変わってしまうので、事務局的にはちょっと困った顔はしていたのです。始まる前に。でも、ちょっとやったほうがいいかなという気はしています。受け取るでいいですか。

○吉田(和) 参事官 かしこまりました。

○福和主査 早めにやらないと間に合わなくなるので、今の話は受け取らせていただいて、さっきから宿題で、本間さんのほうで作っていただいたことと、大山さんのほうで作っていただいたこと。

あと、阪本委員から意見があると来ているので、先に阪本委員からの意見をいただきたいと思います。

阪本委員、音声が出ていないです。

事務局のほうでチェックをしていただいている間に、さっきの文章を作ったものがあれば、まずは本間さんからでいいですか。

○吉田（和）参事官 阪本委員、チャットでメッセージを入れていただいています。

○福和主査 阪本委員はチャットにしますか。

時間をもったいないので、前に進めたいので。

喜連川委員。

○喜連川構成員 細かい話なのですがすけれども、I と 1 と（1）と①と、こんな面倒くさいものを見たのは生まれて初めてなのですがすけれども、普通はアとか a とか違うものを入れて分かりやすくするような気がするのですが、ここはかたくななウィルがおりになりますのでしょうか。

○吉田（和）参事官 分かりやすくします。申し訳ありません。

○福和主査 シャベるときに言いにくいですよ。（1）とか 1）とか言わないといけない。a、b、c とか、ア、イ、ウ、エ、オとか、上手に異なる種類のものがある。

貴重なコメント、無駄な時間を費やさずに済んだので、そういうことにしましょう。

阪本委員からは。

○吉田（和）参事官 阪本委員の御意見ということで、チャットにもございますけれども、5 ページの32行目、フェーズフリーな被災者生活再建支援体制についてはというところがございます。こちらについては、住民支援体制としてはいかがかという御意見でございます。

その趣旨は、被災者生活再建支援体制と言うと災害時メインでフェーズフリーではないという印象があるので、住民支援体制という形でいかがかという御意見でございます。

○福和主査 これは皆さんいかがでしょうか。被災者生活再建支援体制と言うと、被災者なので、後だけになるからということも含めて、住民支援体制としてはどうかということです。

○菅野構成員 私は反対の立場です。要は住民に対しては平時の社会保障なので、その議論をしているわけでは決していない。もし書くとしても両論併記しなければまずいかなと。あくまでもこれは災害のことなので、被災者という言葉は抜くことはできないと思います。

○福和主査 阪本委員とやり取りできないので、菅野委員、阪本委員と電話して、向こうへ行って調整してください。やり取りできないから。

○明城構成員 今の話で、被災者支援という言葉はあちこちに出てきているので、生活再

建までの被災者支援体制とかそういう言葉で、似たような感じで違う言葉が入るよりも、少し整理されるのかなとは思いますが。

○福和主査 もう一回言ってください。

○明城構成員 生活再建までの被災者支援体制とか、そういう言葉でどうかなと思いましたが。調整します。

○福和主査 3人で調整してみてくださいませんか。菅野委員は、今の明城委員のことも頭に置いて調整してください。そうしないと前に進まないのです。

では、提案をください。何ページのどこについてということを書いてください。

○本間企画官 それでは、2ページ目を御覧ください。今、表示してあるところなのですが、菅野構成員より、災害を中長期的・定期的に検証する仕組みがないという御指摘をいただいたことへの修正案です。

緑のマーカーのところですが、ここでまず現在の体制の課題として、個々の災害を中長期的・定期的に検証する体制が構築できていないという文言を追加しております。

続いて3ページのⅡの防災庁が果たすべき役割のパートですが、まずここで(1)で、総合統合的なシンクタンクとして多様な経験、高度な知見を基に、過去の大規模災害の中長期的・定期的な検証を踏まえた上で、次を先読みして対応するという趣旨の文言を入れております。

さらにもう一つ、復旧・復興のパートですが、特に大規模災害については、初動対応のみならず、生活再建や復旧・復興フェーズにおける対応も含め、災害対応を中長期的・定期的に検証し、そこで得られた教訓を次の災害への備えにつなげるという修正案を菅野委員から提示いただきました。

いかがでしょうか。

○福和主査 皆さんいかがでしょうか。よろしいですか。

こういう趣旨で直すということを受け取らせていただいた上で、全体を見た上で事務局のほうで整理が必要な部分はあるかもしれないので。

○本間企画官 つながりとか全体を見たものは整理をさせていただきますが、こういった趣旨の文言を加えるということでいかがでしょうか。

○福和主査 これは菅野委員も納得されたということですのでいいですね。今の本間さんからの中長期的というところについては、合意形成できていますか。

○菅野構成員 はい。

○福和主査 分かりました。では、これでいかせていただきます。

○石井構成員 でも、ちょっとしつこい感じがするので、少し整理できたらいいのではないかなという気がします。

○福和主査 それは印象としてあるので、全体を見た上で整理はバランスよく。

もう一個、大山さんのほうで直した文章があると思います。

○大山補佐 続きまして、もともとのページ番号の3ページ目の下段、行動原則のところ

ですけれども、常に正常性バイアスと戦うと記載されていたところは、正常性バイアスを前提とした備えの徹底と修文案を検討しました。

○福和主査 榛沢委員、この形でいいですか。

○榛沢構成員 分かりました。

○福和主査 皆さんよろしいですか。

では、これでここも修文ができたことにさせていただきます。

最後に、菅野委員と阪本委員の調整がどうついたかを御報告ください。

○菅野構成員 結局、フェーズフリーが被災者のほうにかかっているからおかしなことになっているので、普通のを災害時に備えてデザインするという発想なので、フェーズフリーの場所を変えて、災害時を見据えたフェーズフリーな社会関連施策を実施するとともに、平時から災害ケースマネジメントの体制構築を図るなど、被災者支援体制を平時から構築することを推進する、こういうことかなという話になりましたので、「平時から」が何個か出ているのでそこは修文をお願いしたいですが、そういう意図で言っていければいいかなと。

○福和主査 阪本委員は、それでよければ丸と画面上で。見えない。

○菅野構成員 一応さっき電話で相談して。

○福和主査 明城委員も今の表現でいいですか。

○明城構成員 大丈夫です。

○福和主査 では、これでここは決着がついたということにさせていただきます。

そうしましたら、これで第Ⅲ章はよろしいでしょうか。

では、第Ⅳ章へ行きたいと思います。

事務局で予定していた3時間にならんとしています。本来であれば、以前だと石井委員からは絶対に途中休憩を挟めと言われていたのですけれども、挟んでいませんので、あと10分、よろしくをお願いします。

鈴木委員、お願いします。

○鈴木構成員 これは質問です。

私も意見陳述させてもらいましたけれども、防災庁をつくるに当たって一番僕が重要だと思っていたのは、その権限なのです。災害、有事の際に、誰が権限を持って、ある意味ではオーバールール、法律を犯してでもとは言わないが、今やるべきことを誰が決断し、やれるのか、防災庁はその中でどのポジションにいるのか、防災庁の上に総理がいて、それで防災庁が間を執るのか、どっちにしてもそういう権限が非常に大事だなと思って、ここに要するに勧告等の権限の付与、それから、これを受けた関係各省庁が尊重義務とあります。これは法改正でしょうか。それとも、何かそうではない形でできるのでしょうか。

○吉田（和）参事官 この権限は、具体的に言いますと各省庁の設置法がございまして、その中に書き込むようなイメージになってまいりますので、法律上明記されるというようなイメージです。

○加藤構成員 省庁の設置法を改正すると。

○吉田（和）参事官 そういう意味では、防災庁を新しくつくるのであれば、新しく設置法をつくることにはなりますので、その中でということだと思います。

○加藤構成員 これがどれぐらい効力があるかなのです。この前のコロナのときにも、当時、菅総理とか河野大臣とかと随分話をしましたけれども、そのときはたしか報告義務でちょっと強制力を持ったようなところがあったけれども、それ以上の何か。常にではないです。災害が起きたときとか限定的だけれども、その辺の法整備をいい機会なのでやっただけかなと思っていたのですが、設置法のところに書き込むということですか。

○吉田（和）参事官 そういことです。

○加藤構成員 分かりました。

○福和主査 よろしいですか。報告書上はこれでよろしいですね。

○加藤構成員 はい。

○福和主査 河田委員。

○河田構成員 せっかく相転移というのを認めていただいたのに、相転移が分かるのは各省庁なのです。ですから、勧告だけでは駄目で、指示・勧告でない。つまり、仕事をしてもらわなければいけない。例えば首都直下地震が起こったときに、病院はどうするのだというのは、厚生労働省しか分からない。防災庁では分からないですよ。だから、もちろん予算をつけて仕事をさせるとい仕組みにしないと無責任になります。

司令塔として、例えば内閣総理大臣が最終決めるというものを持ってこない、ほかの省庁と横並びではうまくいかないですよ。

○福和主査 その実現はどうなるかがちょっとよく分かっていなくて、何か起きたときの予算化というのは、これができたときに防災庁が予算化を全体を統括してするのか、それとも、勧告に基づいてそれぞれの省庁が予算取りをするのか、多分そういうことに関わるのですかね。

○河田構成員 感染症については、昨年、内閣官房に司令塔ができて、内閣総理大臣がトップになっているので、予算ができるのです。防災庁はそこまでまだ考えていない。だから、創設するとき、一体予算をどういうふうに配分するかそういうものも決めておかないと、各省庁は予算が減るなんていうのは絶対認めないし、人も減るといのは認めないですよ。だから、それは俯瞰しておかないと駄目だと思うのです。

○福和主査 それをどういうふうに今回記述しておくか。ここはあまり明快に書き過ぎてしまうと抵抗が大き過ぎるけれども、それがうまく酌み取れるような表現を工夫しないといけない気が私はします。

○鈴木構成員 でも、多少ハレーションを起こすぐらいのつもりでも僕は書き込んだほうが良いと思います。何のために防災庁をつくるのかという根本的なところなので、吉田さんに言うのは酷かもしれないけれども、ここは大臣にも守っていただいて、僕はちょっと踏み込んで、書き切るの難しいかもしれないけれども。

○福和主査 こうしましょう。委員の意見としては、そういう意見がたくさんあったというのを事務局にお伝えして、事務局としてどういうふうな書きぶりまでできるかを一度努力いただくということでどうでしょうか。ここで何か決めてしまうわけにもいかないのです。

○河田構成員 だから、こことしての希望を書いて、出すという。

○福和主査 それは出し終わった後に削られるというのは多分具合が悪いと思いますから、事前に事務局のほうできちんと、最終の前にこれからそれぞれ御報告になるはずなので、そのときにちゃんと責任ある方々の判断を仰ぐというところまででどうでしょうか。

書きぶりとしては、こういうことを書きたいと検討会では出た。けれども、それは次回までに何らかそういうアクションをされると思いますから、それを受けた上での案を6月3日に事務局からお出しただいて、それで合意を取るというプロセスでいかがでしょうか。

○河田構成員 12月に国交省に呼ばれて、相転移をどうするんだという話のときに、僕は、人も予算も減らないぞ、新しい仕事があるぞという形で説得していますので、きちんと実行してもらわないといけないので、この委員会としてはそういう方向をきちっと出しておく。だから、この書き方は指示・勧告でいいと思うのです。

○福和主査 指示・勧告ですよ。

○河田構成員 はい。

○福和主査 指示という言葉の定義が私自身はまだあまりよく分かっていないので、事務局のほうで適切な言葉遣いに直していただいて、気持ちとしては、予算も含めて責任を持てるように組織としてはすることが望ましいという意見が大勢であった。大勢でよろしいですか、皆さん。

○山本構成員 追加で、世界各国でこの種の危機管理組織はみんな例えば大統領とか総理のエージェントとして存在しているので、要するに大統領や総理の権限を振るう代わりに、ここで考えてやりますよと。だから、総理の指揮の下という表現はすごく大事なのです。だから、それが世界標準だということは書いてもいいような気がします。日本がそうすべきかどうかは政治判断になると思いますけれども。

○福和主査 さっきちゃんと総理の指揮の下と残してありますから、一応予算的にもそういう解釈ができるようには最初は残しているの、あとは事務局の人たちがどう頑張れるかということで、ここは事務局の人たちが頑張れるように応援をしたということにしておいてください。よろしいでしょうか。

結果がどうなるかは、そのときはもうあまり文句は言わないということで、まずは努力をするということにさせていただきたいと思います。

組織体制、そのほかよろしいでしょうか。これは外には出ない資料なので。

○喜連川構成員 組織体制の在り方だからか知らないですけども、人員体制の確保、それから専門人材の確保という人ばかり出てきて、あまりお金は出てこないのです。でも、一応「等」と遠慮がちに書いてあるから、複数の気持ちが表出されているのではないかな

と思っているのですけれども。

○福和主査 具体化しますか。文章にも予算のことがあまり書いていないのですよね。

○鈴木構成員 基本的にもう防災予算は全部に振り分けられているわけだから、それを一括して防災省にというのはかなり無理だろうし、そこへの遠慮もあるだろうし、けれども例えば時間を限定するとか、災害の前後とか、こういうことに関してはどこか、その辺は柔軟に対応できるはずなので。

○福和主査 おっしゃるとおりで、事前から全部やってしまうと全部を取り上げてしまうことになるので、それは今までどおりが望ましいと思っていて、災害が起きたときは一元的にやらないと、今のように各省庁にあまりにもたくさんの仕事が割り振られていて、法律も各省庁が持っているという状況について、全体として一度棚卸しをして交通整理をするというのは、防災庁ができたときにやらなくてはいけないことだと思っているのです。でも、ここにはそこまであまりにも書き切れないので、結果として「おわりに」のところで法制度の検討も含めという形で書かせていただいているという解釈にしておいていただくと幸いなのですが、よろしいでしょうか。

○山本構成員 あとは福和先生もずっと言ってきたモニタリングというか、国土強靱化ではないですけども、防災庁が物差しを持っていることで予算が動いていくという仕組みを入れるのが現実的にはすごく意味があるかなという気がしています。

○福和主査 モニタリングを各省庁に委ねずに、防災庁側で全ての省庁が何ができているかをモニターして、それを毎年確認をした上で、不足分については、指示になるのか勧告になるのか分かりませんが、各省庁にお伝えをするという事柄が大事であるという意見でいいですよ。

○山本構成員 はい、ありがとうございます。

○福和主査 吉田参事官、今みたいな事柄が後ろのほうで分かるように、ちょっと表現しておいていただけるとよいかと。

○鈴木構成員 4で書いた方がいいのではないですか。

○福和主査 それなりに書いてあります。これでよいかどうか。

○鈴木構成員 4に独立して書いていいのではないですか。

○福和主査 4に、一番下に。それが書けそうかどうかも含めて御検討ください。よろしいでしょうか。

ぴったり13時になりましたが、江口委員。

○江口構成員 10ページの2、十分な人員体制等の確保とあるのでですけども、人員は要るかなと。さっきのお金の話もあるので、ここは事務方に検討してほしいというのと、そもそもリダンダンシーは日本語にしてください。

○福和主査 分かりました。冗長性にします。

○江口構成員 あと、支援強化と入っていますけれども、支援強化は多分読めるかな、大丈夫かなと思いますけれども、さっきのお金の話というのは。

○福和主査 それは4番が新設されれば4番に行きますから、事務局のほうに一任でいいですか。

○江口構成員 はい。

あと、要望なのですけれども、相転移が僕は理解ができていなくて、防災用語なのかも分からないですけれども、僕は聞かれたときに説明できないので、次回までに意味合いとか説明をできるようにしておいてほしいです。

○福和主査 それは下のところにでもいいので、アスタリスクとかをつけて、こういう意味ですということが分かるように記述いただくということでもいいですか。先ほどの取扱いも含めて、河田先生と調整していただいて、一般の人たちに相転移という意味が分かり、それを意識しながらこれからの災害対応ができるようにするためには、その説明はあったほうがいいので、それは次回までに。

○江口構成員 ここはちゃんと括弧で出てくるので、この意味が僕は理解できていないので。

○福和主査 それは次回までの作業にさせてください。いいでしょうか。

一応報告書については何とか。まだありますか。

石井委員。

○石井構成員 1個だけすみません。ずっと議論してきて今すごく思っているのは、3ページの「防災庁における行動原則」のところに、補完するということがないのだなと。「モレ・ムラ」がないとかいろいろあって、各省庁の役割もあって、そこを横断的につなぐのだけれども、そこに抜けがあったところは防災庁が補完しなくてはいけないのかなというところも今日の3時間の議論を通じて思ったのですけれども、共通する行動原則の中に、互いに補完し合うという意味もあってもいいのかもしれないけれども、俯瞰して見て、横はつなぐけれども、そこに穴があったら誰がやるのみたいな。

○福和主査 抜け漏れをなくすのは防災庁の仕事なので、抜け漏れをなくすということがそれを意味しているのかなと思っていたのですが。

○石井構成員 3ページの行動原則には入っていないので、補完の原則と入れておくといいいのではないかなと。

○福和主査 その趣旨を一文、共通する行動原則で、抜けているところはちゃんと手当てしないといけないので、手当てをする主体として防災庁が手を動かす、あるいは勧告するとかということになると思います。

○石井構成員 そこがあるといいかなと思いました。

○福和主査 よろしいでしょうか。

では、報告書についてはここまでということで、事務局的にもよろしいですか。

○吉田（和）参事官 かしこまりました。

○福和主査 次回までにまとめて、今回は絶対に文句を言われないようにするぐらい、次回はしゃんしゃんといくようにするまでしておかないと、次回、宿題が出てしまうと、い

ろいろな日程ができなくなってしまうので、ぜひ頑張ってくださいと思います。よろしいでしょうか。

○明城構成員 1個だけ、ポンチ絵については、意見がある場合はまたこの後、メール等でやり取りという感じですか。

○吉田（和）参事官 御意見いただければ。

○江口構成員 本文ができないとポンチ絵は本来作っては駄目だと思うのです。なので、まず本文でいいと思います。

○福和主査 とはいえ、次回、ポンチ絵も含めて承認いただきますから、ポンチ絵がないと報道発表とかに困るので、ポンチ絵については次回決め切りますから、まずは次回、報告書がしゃんしゃんといくように報告書を直していただいて、ポンチ絵については次回この場で全部を決めるということでもいいですか。

事前にコメントがあるのであれば、先に事務局に出しておいていただければ、ある程度、修正可能なものは修正するというのでいいでしょうか、明城委員。

○明城構成員 分かりました。

○福和主査 そのほかよろしいでしょうか。

どうぞ。

○栗田構成員 課題提起させていただきますが、前回資料として出された防災官民連携ネットワーク（仮）という話ですけれども、その後、報道で、ここの会議で決めた結果としてそういうものが設置されるようになりましたということが報道されていたのですけれども、そうではないなと思ひまして、そもそも事前防災から今の話、発災から復旧・復興まで、一体的に官民連携を皆さんで考えてやっていきたいと思いますというのが今回の会議の趣旨だと思いますので、ちょっと唐突というか、あの構想とこの会議との関係性だとか、やることに関して異論はないのですけれども、もし本当にやるならばしっかりとした議論と、目的とか、いろいろな方向性を皆さんで話し合った上でやっていくべきではないかなと感じました。

○福和主査 これは取りあえず今お聞きしておいて、恐らくここではまだあまり議論していないので、こういう方向で動いていきたいと考えていますということを、ここで御報告を副大臣からいただいたという段階にあるかと思います。

報道のほうが進んでしまっているのかもしれない、ここで議論したというよりは、ここで報告を受けたという位置づけだったということで、ここは皆さんに判断いただくということでもよろしいですか。そういうことであつた。我々としては、これをつくりましょうというところまでは踏み込んだ議論はしていなかったという共通認識でいいですかということです。

（委員首肯）

○福和主査 今までも内閣府防災で、今日いらっしゃる後藤参事官のところでも、吉田参事官のところでも、様々な官民連携の枠組みがあるので、これについてはまずはど

ういうものが今動いているかということを一度交通整理をして、まさにそこにどういう抜け漏れがあるかということを見た上で、その上でどういう体制にすべきかということは、防災庁が設置された後に、こういう枠組みで全体として国民の力とか産業界の力、NPOの力を結集するのだということになるので、それも含めて全部これからの課題だとは私自身は認識をしています。

ただ、御報告いただいたようなことを今やっておくということは悪いことではないので、本格的な在り方の検討はこれからだと思うのですが、ネットワークをある程度つくって、そういう意見交換をしていただくことは、今の暫定的にはいいのではないかとということで、栗田さん、いかがでしょうか。

○栗田構成員 結構です。

○山本構成員 産業化のところ、赤澤大臣もおっしゃっていた防災産業というのが今後出てくるとするとマーケットの話が絡んでくると思うので、そこはかなり丁寧に。もちろん政治の皆さんだからそれは考えられると思うのですが、丁寧にやれるようにしていけるといいなというのは思います。

○福和主査 全体の枠組みをどうするかというのは、今どういうものがあるかがまだ整理されていない段階なので、事業との間の連携も、防災テクノロジーとか、防災経済コンソーシアムとか、国民会議とか、幾つか経済界との接点がある中で、それらの中でどういうところで防災産業を育成していくのがいいかという場の適切さも含めて、これは現状の内閣府防災のほうの宿題なのではないかなと思っています。まずこれを交通整理すること。どちらかという今までのいろいろな課題が出ると、若干場当たりのいろいろなものをつくっている。あらゆるものがそうなので、それを総ざらいすることがこの防災庁をつくる時の一番の課題なので、一つ宿題をいただいたという整理にさせていただきたいのですが、栗田委員、いいでしょうか。

○栗田構成員 お願いします。

○江口構成員 企業として受け取った側なのですが、企業側としては大混乱しているので、また違う方向から何か来たというので。

○栗田構成員 それが一番恐ろしいことで、ここで決まったことではないということ、それから、今後ちゃんとこの委員にも意見をいただいて、ちゃんと我々がやっていきたいと思いますという意見です。

○福和主査 それは具体的に防災庁を設置するまでに、今後、どういう組織とか体制が望ましいかということは、予算のこともあるし、きっと事務局の側でアドバイザーの皆さんに意見を頂戴しながら、具体的に作戦が練られていくのだと思っていますので、きっと大丈夫です。

よろしいでしょうか。

さて、3時間10分もやっしまいましたので終了したいと思いますのですが、次回は、絶対次回で決め切るということを前提でここに来ていただきたいので、細かい議論は後でもでき

ますから、大枠として大事なことが出来上がっていたら、みんなでよかったねという方向になるように議論させていただければと思います。どうもありがとうございました。

事務局にマイクをお返しします。

○吉田（和）参事官 長時間にわたり御議論いただき、ありがとうございました。

本日いただいた御意見等々、早めに修正して御照会させていただきますので、また御意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

次回の日程についてですけれども、6月3日火曜日の17時からでございます。こちらで取りまとめということをお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

それから、前回同様、マスコミの方々からいろいろ問合せがあると思いますが、基本的にまだ議論中ということでお答えをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

最後ですが、繰り返しになりますけれども、非公表資料、回収資料がございますので、そちらについては赤いファイルの中に入れて置いて帰っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、本日のアドバイザー会議を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。